

リアホナ

表紙の記事——

霊的な知識の探求, 14ページ

サタンには、
あなたに強制する力はありません
2ページ

2007年ミュチャルのテーマ
8ページ

付録——子供のための
ポスター(取り外し可能)



末日聖徒イエス・キリスト教会公式機関誌(日本語版)
大管長会:ゴードン・B・ヒンクレー、トーマス・S・モンソン、
 ジェームズ・E・ファウスト
十二使徒定員会:ボイド・K・バッカー、L・トム・ペリー、ラッセル・M・ネルソン、ダリン・H・オークス、M・ラッセル・バラード、
 ジョセフ・B・ワースリン、リチャード・G・スコット、ロバート・
 D・ヘイルズ、ジェフリー・R・ホルランド、ヘンリー・B・アリン
 グ、ティーター・F・ワークトドルフ、デビッド・A・ベドナー
編集長:ジェイ・E・ゼンセン
顧問:モンティ・J・ブラフ、ゲリー・J・コールマン、菊地良彦
実務運営ディレクター:デビッド・フリッシュコト
編集ディレクター:ピクター・D・ケーブ
主任編集者:ラリー・ヒラー、リチャード・M・ロムニー
グラフィックスディレクター:アラン・R・ロイボグ
編集主幹:ピクター・D・ケーブ
編集主幹補佐:ジェニファー・L・グリーンウッド
副編集長:ライアン・カー、アダム・C・オルソン
編集補佐:スーザン・バレット
編集スタッフ:シャナ・バトラー、リンダ・ステール・クーバー、ラリー・
 ボーター、ガート、R・バル・ジョンソン、キャリー・カステン、メルビ
 ン・リービット、サリー・J・オドカーク、ジュディス・M・パーラー、ピビア
 ン・ポールセン、サラ・R・ボーター、ジェニファー・ローズ、ドン・L・
 サール、レベッカ・M・テラー、ロジャー・テラー、ジャネット・トーマス、
 ボール・バンデンバーク、ジュリー・ワーデル、キンバリー・ウェップ
主任秘書:モニカ・L・ディッキンソン
編集インターン:ブリタニー・ジョーンズ・ビーム、ニコール・セイモア
マーケティング部長:ラリー・ヒラー
実務運営アートディレクター:M・M・カワサキ
アートディレクター:スコット・バン・カンペン
制作主幹:ジェーン・アン・ピーターズ
デザイン・制作スタッフ:カリ・R・アロヨ、コレット・ネベカー・オース、ハ
 ワード・G・ブラウン、ジュリー・パーテッド、トーマス・S・チャイルド、レ
 ジナルド・J・クリステンセン、キャスリーン・ハワード、デニス・カービー、
 タッド・R・ピーターソン、ランドール・J・ピクストン、
印刷ディレクター:クレーク・K・セジウィック
配送ディレクター:クリス・T・クリステンセン

●定期購読は、「リアホナ」注文用紙でお申し込みになるか、郵便振替
 (口座名/末日聖徒イエス・キリスト教会 振替口座番号/00100-6-
 41512)にて教会管理本部配送センターへご送金いただければ、直接郵
 送いたします。●「リアホナ」のお申し込み/配送についてのお問い合わせ
 ……〒133-0057東京都江戸川区西小岩5-8-6/末日聖徒イエス・キ
 リスト教会 管理本部配送センター 電話 03-5668-3391
発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会
 〒106-0047東京都港区南麻布5-10-30
 電話 03-3440-2351
定 価 年間予約/海外予約 1,800円(送料共)
 半年予約 1,200円(送料共)
 普通号/大会号 200円
 「リアホナ」への投稿およびご質問は、下記の連絡先にお送りください。
 Room 2420, 50 East North Temple Street,
 Salt Lake City, UT 84150-3220, USA
 電子メール: liahona@ldschurch.org

「リアホナ」(モルモン書に出てくる言葉、「羅針盤」または「指示器」の意)は、以下の
 言語で出版されています。
 アイスランド語、アルバニア語、アルメニア語、イタリア語、インドネシア語、ウクラ
 イナ語、英語、エストニア語、オランダ語、韓国語、カンボジア語、キリバス語、クロ
 アチア語、サモア語、シンハラ語、スウェーデン語、スペイン語、スロベニア語、セ
 プリア語、タイ語、タガログ語、タミル語、タミル語、中国語、チェコ語、デルク語、デ
 ンマーク語、ドイツ語、トンガ語、日本語、ルウウェー語、ハイチ語、ハンガリー語、
 フィジー語、フィンランド語、フランス語、ブルガリア語、ベトナム語、ポーランド
 語、ポルトガル語、マーシャル語、マダガスカル語、モンゴル語、トビア語、リト
 ニア語、ルーマニア語、ロシア語。(発行頻度は言語により異なります。)
 ©2007 Intellectual Reserve, Inc. 著作権所有。印刷:日本
 「リアホナ」に掲載されている文章や視覚資料は、教会や家庭におい
 て臨時に、また非営利目的に使用する場合は複製することができます。
 視覚資料に関しては、作品のクレジットに制限が記されている
 場合に複製できないことがあります。著作権に関するご質問は、
 Intellectual Property Office, 50 East North Temple Street,
 Salt Lake City, UT 84150, USAに郵送するか、電子メール—
 cor-intellectualproperty@ldschurch.org にご連絡ください。
 英語版承認—1996年8月 翻訳承認—1996年8月
 原題—International Magazines January 2007.
 Japanese. 00781 300
 「リアホナ」は、教会のホームページ www.lds.org (英語) に様々な言語で
 掲載されています。英語の場合は「Gospel Library」(福音図書館)をク
 リックしてください。その他の言語は世界地図をクリックしてください。

For Readers in the United States and Canada:
 January 2007 no. 1 LIAHONA (USPS 311-480) Japanese (ISSN 1521-4729)
 is published monthly by The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints, 50
 East North Temple, Salt Lake City, UT 84150. USA subscription price is
 \$10.00 per year; Canada, \$16.00 plus applicable taxes. Periodicals Postage
 Paid at Salt Lake City, Utah, and at additional mailing offices. Sixty days
 notice required for change of address. Include address label from a recent
 issue; old and new address must be included. Send USA and Canadian sub-
 scriptions and queries to Salt Lake Distribution Center at address below.
 Subscription help line: 1-800-537-5971. Credit card orders (Visa,
 MasterCard, American Express) may be taken by phone. (Canada Post
 Information: Publication Agreement #40017431)

POSTMASTER: Send address changes to Salt Lake Distribution Center,
 Church Magazines, PO Box 26368, Salt Lake City, UT 84126-0368.

一般

- 2 大管長会メッセージ——わたしたちを救う力 ジェームズ・E・ファウスト 管長
- 12 イヤリング ビクトル・マカロフ
- 20 すべてのものが主のことを証する アダム・C・オルソン
- 25 家庭訪問メッセージ——主の御手に使われる者となる
- 28 スペンサー・W・キンボール——行動の人 ガレット・H・ガーフ
- 38 ともに教化されて、ともに喜ぶ A・ロジャー・メリル
- 44 末日聖徒の声
強盗と本と証 マイリン・エスピノサ・ミラ
スーツ ローリー・リース
「お父さん、お父さんを誇りに思うよ。」
マルセリーノ・フェルナンデス・レボジョス・スアレス
- 48 読者からの便り

表紙

表紙——写真/マシュー・ライアー

「フレンド」表紙

写真/キンバリー・ウェップ



28 スペンサー・W・キンボール——行動の人

家庭の夕べのためのアイデア

クラスや家庭において、このページ
 に提案されているアイデアを
 役立てることができます。

「知っていてよかった」

26 ページ——家族一人一人に、何か暗記しているものを皆の前で言ってもらい、それを知っていたおかげで助かったことを話してもらいます。信仰箇条を覚えていたことが、コン・ネアン・セレイにとってどのような助けとなったかを話し合ってください。家族で一緒に暗記できる聖句か賛美歌を選んでください。

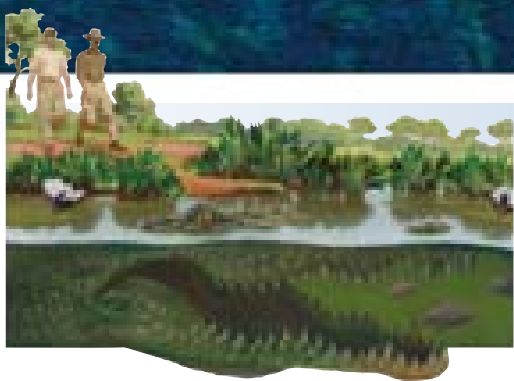
「スペンサー・W・キンボール——
 行動の人」28 ページ——「実行」や
 「わたしたちは歩幅を広げなければなり

ません」と言ったことでよく知られている
 預言者はだれか、家族に尋ねてくださ
 い。キンボール大管長の写真を
 見せてください。記事の中の
 お話をいくつか家族で順番
 に読み、大事な箇所を挙
 げてもらいます。最後
 のお話が終わったら、
 「神の子です」(『賛美
 歌』189番)を歌ってください。記事
 の最後の段落からキンボール大管長の
 約束を読んで終わります。

「ともに教化されて、ともに喜ぶ」

38 ページ——家族に次の質問に答え
 てもらってください。「もし聖餐会が
 まらなと感じたらどうしますか。」
 それぞれの答えについて話し合っ





35
誘惑に
打ち勝つ

青少年

- 8 真の自信 中央若い女性および中央若い男性会長
- 11 ポスター——あなたの頭には何が入っていますか?
- 14 霊的な知識の探求 ボイド・K・パッカー会長
- 26 知っていてよかった
コン・ネアン・セレイとフィリス・ガンダーソン
- 35 アイデアリスト——誘惑に打ち勝つ
- 36 短いメッセージ
家族が永遠にいられることを知っています
モイセス・ネフィ・モラレス・ゴンザレス
特別な指導者
サリア・デ・パロス・フェレイラ・ダ・シルバ

フレンド

- F2 預言者の声——決してあきらめない
トーマス・S・モンソン管長
- F4 分かち合いの時間——おそれてはならない
エリザベス・リックス
- F6 スペンサー・W・キンボールだいかんちょうのしょうがいから
——農場ではたらく
- F8 新約聖書
- F10 友だちになろう——良い場所で
スイスのミュンヘンシュタイン
に住むナオミ・ハグ
キンバリー・ウェブ
- F13 特別な証人——
世の中がとてもおそろしい
と感じるときに、どうしたら
信仰を持てるでしょうか?
ジョセフ・B・ワースリン長老
- F14 おそれの反対
パトリシア・R・ジョーンズ
- F16 色をぬりましょう

F2 決して
あきらめない



付録

- F2 ポスター——
わたしはしんこうをもってしゅにしたがいます

こんげつごう かく
今月号のどこかに隠れている
CTRリングをさがしながら、
どうすれば救い主についての証を
きずくことができるかを考えてください。



ください。同じ質問に対するキンボール大管長の答えを分かち合います。教会の集会に出席するときにはキンボール大管長の模範に倣って、積極的に学び、御霊によって受けるよう家族にチャレンジしてください(教義と聖約50:13-22参照)。

「お父さん、お父さんを誇りに思うよ。」 46ページ——だれがいちばん長く静かにしていただけるか、というゲームをします。沈黙が破られたら、静かにすることがどれくらい難しかったか話し合ってください。この話を家族に読み聞かせながら、促されたときに口を開いて語ることをなぜ大切なのかを考えさせてください。

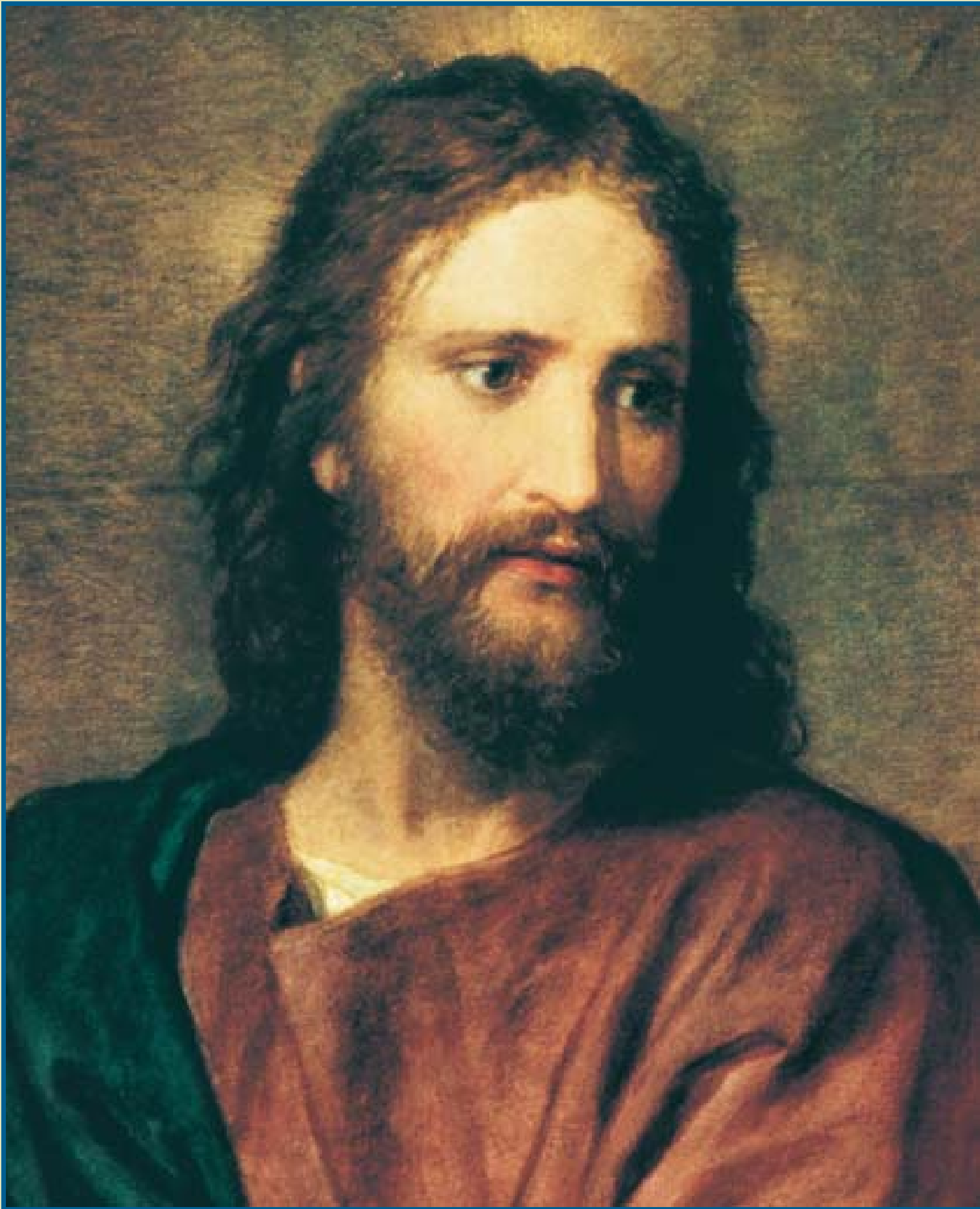
い。御霊の促しに耳を傾け、従うことについて証してください。

「おそれの反対」 F14ページ——トリシアのお話から初めの4段落を読んで、彼女がなぜ怖がっていたのかを説明してください。「恐れを克服するためには何ができるでしょうか」と尋ねます。お話の残りを全部読み、祈りや賛美歌には恐れを克服する力があることを証してください。

今月号に採り上げられているテーマ

Fは「フレンド」の略

愛	12	信仰箇条	26
証	14, 20, 46	新約聖書	20, F8
悪	2	聖文研究	28
イエス・キリスト	2, 20, 28, F4, F8	聖霊	14, 38
祈り	28, F4, F14	選択の自由	2, 28
教える	1, 7, 25, 38	伝道活動	28
思い	8, 11	徳	8
家族	F10	粘り強さ	F2
家庭のタベ	1	働く	F6
家庭訪問	25	扶助協会	25
神の言葉	38	ホームティーチング	7
キンボール、スペンサー・W	28, F6	奉仕	25, 28, 37, 45
敬虔	28	学ぶ	14, 26, 38
結婚	12	ムーシャルのテーマ	8
死	36	結び固め	36
自信	8	モルモン書	44
信仰	F4, F13, F14, F16,	誘惑	2, 35
		靈感	45
		若い女性	8, 37
		若い男性	8



わたしたちを 救う力

大管長会第二顧問
ジェームズ・E・ファウスト管長

わたしは、サタンとその使いたちについて警告の声を上げなければならぬと感じています。サタンとその使いたちはすべての悪の根源です。これはあまり人の気持ちを明るくするテーマではありませんので、祈りの気持ちを忘れずに話したいと思います。わたしは、サタンは大いなる偽り者であると考えています。

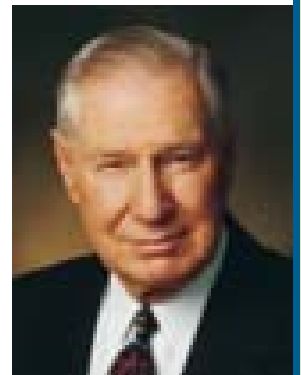
わたしたちはこれから、神の王国が強められていくにつれて、サタンの勢力も増大していくさまを目の当たりにすることでしょう。サタンは常にその勢力を広めています、そのこと自体、神の業が真実である証拠だと、わたしは確信しています。これから先、サタンの攻撃はさらに狡猾になり、また公然と行われるようになるでしょう。そしてさらに巧妙に悪賢く偽装するとともに、大胆さも増し加えられていくでしょう。あらゆる悪に気づける、さらに高い霊性ととともに、それらの悪に抗するためのより大きな力が必要になるでしょう。しかし、神の業が妨げられることはあっても、それは一時的な現象にすぎません。神の業は必ず前進していくからです。¹

サタンやその不可解な教えに好奇の目を向けるのは良いことではありません。悪魔に近づいても、決して良いものは得られません。悪魔に近づくのは火遊びをするのと同じで、すぐにや

けどを負ってしまうことになります。「罪の知識は犯罪を誘う」のです。² ただ一つの安全な道は、サタンとサタンがそそのかす邪悪な行いやふらちな習慣から遠ざかることです。悪魔崇拜、魔術、魔法、妖術、呪術、黒魔術、またいかなる邪神崇拜にも決して手を染めてはなりません。

しかし、ブリガム・ヤング大管長（1801 - 1877年）は、「悪行とその結果……について学ぶ」のは大切なことである、と言っています。³ サタンは世の諸悪の根源です。神の業に敵対する動きの陰には、必ずサタンの暗躍があることを忘れてはなりません。アルマはそのことについて、簡潔に述べています。「善いものは何であろうと神から出、悪いものは何であろうと悪魔から出る……」⁴

パウロは、「サタンに欺かれることのない[ように]。わたしたちは、彼の策略を知らないわけではない」⁵と語りました。わたしがこのテーマを選んだ大きな理由は、パウロに倣って、若人に警告を与えることで彼らを助けるためです。わたしたちは、世の狡猾についてあまり知識を持たない若人が、サタンの誘惑や欺きから自分自身を守ることができるように願っています。サタンの手口に精通しているなどというつもりはありませんが、わたしは自分自身やほかの人々の生活の中に、サタンの働きや影響力を見てとったことが何度かあります。わたしが最初に伝道に出たとき、サタンはわたしを道からそれさせ、できることなら主の業にとって無益



福 音の聖約と
儀式に
従順に従い、
キリストのみもとに
来る人はだれでも、
サタンのたくらみを
くじくことができます。



預 預言者
ジョセフ・
スミスは、
自分自身の体験から
次のように言っています。
「人が主に
近づけば近づくほど、
主の御心の成就を
妨げようとする力が
強くなる。」

な者にしようとさえしました。それはもう60年
余り前のことですが、サタンの巧妙な手口は今
でもよく覚えています。

サタンの甘い誘惑

皆さんの中に、サタンの誘惑を感じたり、そ
の声を聞いたりしたことがない人などいるで
しょうか。多くの場合、サタンの誘惑は、理に
かなった正当なものに思えます。サタンの誘惑
の声は、耳に快く響き、わたしたちの心をそそ
ります。厳しいところや耳障りなところは一つ
もありません。もし悪魔の声が不愉快なもので
あったら、人々を丸め込み耳目を引きつけるこ
とはできないでしょう。

シェイクスピアは次のように言っています。
「暗黒界の主君は紳士で〔あ〕る。」⁶ 「悪魔も聖
書を引きあいに出すことがあるものだ、自分勝手
な目的にな。」⁷ 大いなる偽り者ルシフェルは、
非常に強い力で人々をだまします。パウロはコ
リント人に向けて次のように書いています。
「しかし、驚くには及ばない。サタンも光の天
使に擬装するのだから。」⁸

わたしたちの心に強く訴えかけてくるサタン
の言葉には、次のようなものがあります。「そん
なことはだれでもしている。」「それをしてもだ
れも傷つけないから大丈夫。」「自分が正しい
と思ったら、それが正しいことなのだ。」「今は
それが流行なのだ。」こうした狡猾な方法を用
いるサタンは、まさしく大いなる偽り者、人を
欺く専門家、偽りの王、この上なく不誠実な者
と呼ぶにふさわしい存在です。

わたしたちは皆、心の中に一つのブレーキ
システムを持っています。それは、わたしたち
がサタンに従って間違った道を遠くまで進まな
いように、思いとどまらせてくれます。それは、
わたしたちの心にささやきかける静かな細い
声のことです。しかし、もしサタンの誘惑に身
を任せるならば、ブレーキオイルが漏れ始め、
ブレーキの利きが悪くなったり、全然役に立た
なくなったりします。

ニーファイはサタンが用いる常套手段につ
いてこう述べています。

「また、悪魔はほかの人々をなだめ、彼らを
欺いて現世での安全を確信させるので、彼ら

は、『シオンの中では、すべてが良い。まことに、シオンは榮えており、すべてが良い』と言う。悪魔はこのようにして人々をだまし、巧みに地獄に誘い落とすのである。

そして見よ、悪魔はほかの人々にへつらい、『地獄はない』と告げ、『悪魔はいないので、わたしは悪魔ではない』と言う。悪魔はこのように彼らの耳にささやいて、決して逃げられない恐ろしい鎖で縛ってしまう。⁹

大管長会はサタンについて次のように述べています。「サタンは完全な偽装をして働いています。そのために多くの人々は、サタンにも、またその手口にも気がつかないでいます。すべての罪悪、墮落、災いはサタンに端を発しています。また心を引き裂かれ、命を失い、魂を滅ぼされた人々がいますが、これもみなサタンの仕業です。サタンは夜の闇に紛れて盗人のようにやって来ます。彼は羊の衣をかぶったおおかみなのです。」¹⁰ サタンはへつらいの言葉を用いることにおいては、だれにも負けません。また言葉が持つ大きな力についても知り尽くして、サタンの僕は度々この力を悪用します。¹¹ サタンはいつの時代にも、世の人々に対して大きな力を振るってきました。

以前、グアテマラ神殿の神殿会長を務めていたアーネスト・リロイ・ハッチ兄弟が次のように言うのを聞いたことがあります。「悪魔は、悪魔だから利口なのではなく、長い年月を経ているから利口なのです。確かに悪魔は昔から存在していました。しかし、最初から悪事を行っていたわけではありません。昔は天の衆群とともにいたのです。彼は、「神の前で権威を持っていた神の一天使」でした。¹² 彼はキリストよりも先に、父なる神にこう提案しました。「御覧ください。わたしがここにいます。わたしをお遣わしてください。わたしはあなたの子となりましょう。そして、わたしは全人類を贖って、一人も失われぬようにしましょう。必ずわたしはそうします。ですから、わたしにあなたの誉れを与えてください。」¹³ サタンは人の選択の自由を滅ぼし、強制によってその計画を成し遂げようとしていました。

サタンは栄光、力、そして強制による支配権を求めたために悪魔となったのです。¹⁴ 一方、世の始めから選ばれていたイエスは、神に向かってこのようにおっしゃいました。「父よ、あなたの御心が行われ、栄光はとこしえにあなたのものがありますように。」¹⁵ サタンとイエスの考え方には、なんと大きな隔たりがあることでしょうか。サタンは邪悪だったにもかかわらず、その説得力をもって天の衆群の3分の1を自分に従わせました。¹⁶ サタンは「わたしもまた、神の子だ」と言って、大きな欺きの業を推し進め、神よりも自分を愛するよう説得したのです。¹⁷

選択の自由——わたしたちの選択肢

選択の自由は、御父の計画の定めるところに従い、サタンの強制の計画に代わるものとしてわたしたちに授けられたものです。このすばらしい賜物によって、わたしたちは進歩成長し、完成を目指して前進できるようになりました。もし選択の自由がなければ、自分やほかの人の過ちを教訓として進歩成長することができなくなってしまいます。

ルシフェルは反逆を起こしたために追い出され、「サタン、すなわち、あらゆる偽りの父である悪魔となって、人々を欺き、惑わし、またまことに、[主]の声を聴こうとしないすべての者を自分の意のままにとりこにする者となった。」¹⁸ かつては大きな力を持ち、神のみもとにいたこの天使は、こうして神と御子のみもとから放逐されてしまいました。¹⁹ そして、深い悲しみが生まれました。「もろもろの天は彼のために泣き悲しんだ……。彼は暁の子ルシフェルであった。」²⁰ この聖句は、キリストに従う人々は、道を踏み外して「神の御前から締め出されてい」る人々に対して関心を寄せる責任があることを示してはいないでしょうか。²¹ わたしは、無条件の愛を示し、正しい道に戻れるように手を差し伸べることに勝る方法はないと思います。

しかしサタンは、良い役割ではないものの、ある重要な役割も担っています。ニーファイ第二書には「それは、すべての事物には反対のものがなければならないからである」と書かれています。²² ペテロは実にこのように警告しています。「身を慎み、目をさましていなさい。あなたがたの敵である悪魔が、ほえたけるししののように、食いつくすべきものを求めて歩き回っている。」²³

クリスチャンの作家であるC・S・ルイスは、サタンの策略について鋭い洞察を示しています。彼が書いた物語の中に、熟練した悪魔であるスクリュウテープが、立派な悪魔となるために見習い修行をしているワームウッドにこう言う場面があります。

「お前はこんなものはささいな罪だと言う。ほかの若造どもと同じように、人間どもに大きな悪を犯させたという手柄話をしたいとせいているのだろうが……回を重ねてじわじわと、光から闇の中へ追い込んでいくな、小さな罪でもかまわないのだ。……実際、地獄への最も確実な道は、少しずつ下って行くなだらかな坂道だ。そのうえ、足もとは柔らかな地面で、急な曲がり角もないし、道しるべもない。」²⁴

C・S・ルイスは、また次のように書いています。「善良な人間は誘惑がどのようなものかまったく知らない、などという愚かな考えが人々の間に広まっている。これは明らかな偽りである。誘惑の強さを理解できるのは、誘惑と戦う人だけである。……誘惑の風の強さは、それに立ち向かって行って初めて分かる。誘惑

サタンとその使いたちの力から

身を守ってくれるのは、
聖霊の賜物を通して
与えられる
識別の賜物です。

これは、
主の戒めを守り、
生ける預言者の勧告に
従おうと努力する人々に、
個人的な啓示により
与えられるものです。



に負けて倒れている人には分からない。』²⁵

預言者ジョセフ・スミスは、自分自身の体験から次のように言っています。「人が主に近づけば近づくほど、主の御心の成就を妨げようとするサタンの力が強くなる。』²⁶

防御の方法——堅く立つ

しかし、サタンの力を恐れるあまり萎縮する必要はありません。わたしたちが許可しないかぎり、サタンはわたしたちに対して力を振るうことはできないのです。サタンはほんとうは臆病で、わたしたちに確固とした心構えがあれば退却してしまうのです。使徒ヤコブはこう勧告しています。「そういうわけだから、神に従いなさい。そして、悪魔に立ちむかいなさい。そうすれば、彼はあなたがたから逃げ去るであろう。』²⁷ わたしたちから話しかけなければ、サタンといえどもわたしたちの心の中を知ることはできません。ニーファイも、サタンには義人の「心を支配する力を持たない」と言っています。²⁸ コメディアンなどが「わたしに

それをさせたのは悪魔だ」と言って、自分の間違いを正当化するのを聞いたことがあります。わたしは、いかにサタンとはいえ、人間を意のままに動かせるとは思いません。確かにサタンはわたしたちを誘惑したり欺いたりすることはできますが、わたしたちが許さないかぎり、わたしたちを動かすことはできないのです。

わたしたちに与えられているサタンに抵抗する力は、わたしたちが思っている以上に強いものかもしれません。ジョセフ・スミスはこう教えています。「肉体を持つ者は、肉体を持たない者を支配する力を持つ。悪魔はわたしたちが許さないかぎり、わたしたちを支配することはできない。わたしたちが神から与えられたものに背くとき、悪魔はその力を得るのである。』²⁹

またジョセフ・スミスは「悪霊にも限界、制限、律法があり、彼らはそれによって治められている」と言っています。³⁰ サタンとその使いたちは決して全能ではありません。サタンは罪を犯した人に、赦される望みはないと思込ませることがあります。しかし希望は常にあるのです。ど

れほど深刻な罪であっても、そのほとんどは心からの悔い改めを通して赦しを受けることができます。

悪を見分ける

サタンは、現代のだまされやすい人々の中で大きな成功を収めています。非常に多くの人々がサタンとその使いたちのえじきとなっています。しかし、彼らの力から身を守る強力な盾があるのです。それは聖霊の賜物を通して与えられる識別の霊です。これは、主の戒めを守り、生ける預言者の勧告に従おうと努力する人々に、個人的な啓示により与えられるものです。

確かに、神の栄光を真心をもって仰ぎ見る人は、自分に必要な啓示を受けることができます。なぜなら、彼らの体は「光に満たされ、〔彼ら〕の中に暗さが無い」と約束されているからです。³¹ 福音の聖約と儀式に従順に従い、キリストのみもとに来る人はだれでも、サタンのたくらみをくじくことができます。正直に、また隣人に対して誠実な生活をし、主の宮に参入し、ふさわしい状態で聖餐を受け、安息日を守り、什分の一やその他の献金を納め、悔い改めの気持ちをもって祈りをささげ、主の業に励み、自分たちを管理する指導者たちに従うなら、主の謙遜な弟子は決して悪魔にだまされたりはしません。

今、世の中では、偽り、混乱、暴力、無秩序、悲しみ、欺きなどがますますひどくなっています。しかし、それらの影響力から守ってくれる力が確かに存在します。その救いの力とは、主イエス・キリストの永遠の福音に含まれる、原則と聖約と儀式です。福音の原則と聖約と儀式には、全能の神の神権の権能と力が伴っています。この教会の会員は、この力を託され、保持しています。この力をもってすれば、地上においてサタンの多くの力を撤退させることができます。わたしたちは、すでに世を去った人々、今生きている人、またこれから生まれてくる人々のために、この力を託されています。そのことを確信しています。

わたしは、義が広まることによって、破壊者の悪の手が押しとどめられ、全世界にそののろいがかげられることのないように祈っています。また神がわたしたちの弱さ、欠点、足りないところを赦し、過ちをも寛大に赦してくださるように祈っています。悲しみ苦しんでいる人々に慰めが与えられ、打ちひしがれている人々に安らぎが与えられますように。■

注

1. 教義と聖約3：1；65：2参照
2. ジョセフ・F・スミス, Gospel Doctrine, 第5版(1939年), 373

3. *Discourses of Brigham Young*, ジョン・A・ウィッツォー編(1941年), 257
4. アルマ5：40
5. 2コリント2：11

6. 「リヤ王」第3幕第4場『シェイクスピア全集7』筑摩書房, 三神勲訳, 206
7. 「ベニスの商人」第1幕第3場『シェイクスピア全集1』筑摩書房, 三神勲訳, 272
8. 2コリント11：14；2ニーファイ9：9も参照
9. 2ニーファイ28：21-22
10. ジェームズ・R・クラーク編, Messages of the First Presidency of The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints, 全6巻(1965-75年), 第6巻, 179
11. モルモン書ヤコブ7：4参照
12. 教義と聖約76：25
13. モーセ4：1
14. モーセ4：3-4参照
15. モーセ4：2
16. 黙示録12：4；教義と聖約29：36参照
17. モーセ5：13
18. モーセ4：4
19. 教義と聖約76：25参照
20. 教義と聖約76：26
21. モーセ6：49参照
22. 2ニーファイ2：11
23. 1ペテロ5：8
24. *The Screwtape Letters*(1961年), 56
25. *Mere Christianity*(1960年), 124
26. オーソン・F・ホイットニー, *Life of Heber C. Kimball*(1945年), 132
27. ヤコブ4：7
28. 1ニーファイ22：26参照
29. *The Words of Joseph Smith*, アンドリュー・F・エハット, リンドン・W・クック編(1980年), 60
30. *History of the Church*, 第4巻, 576
31. 教義と聖約88：67

ホームティーチャーへの提案

このメッセージをよく祈って研究した後、あなたが教える人々の参加を促すような方法を用いて分かち合ってください。幾つかの例を以下に紹介します。

1. 家族に、火のそばに座っている場面を想像してもらう。火遊びの危険性について話し合う。火遊びは、「サタンやその不可解な教えに好奇の目を向ける」とこととどのような類似点があるだろうか。ファウスト管長が述べている、サタンの偽りに打ち勝つための方法を幾つか挙げる。サタンのたくらみをくじく義の模範となるよう家族に勧める。

2. 小さなおもちゃの車または車の絵を持って行くか、近くにある車を見てもらう。運転していて、車のブレーキが壊れたらどうなるだろうか。ファウスト管長が語った、わたしたち自身の内に備わっているブレーキシステムの例を挙げる。悪魔と戦うためには、聖霊に対する感受性を強め、静かな細い声に耳を傾けることが大切であることを証する。

3. この話を用いて、サタンの手口と、サタンと戦うためにわたしたちに与えられている霊的な道具を書き出す。サタンの手口について家族と話し合い、わたしたちにはサタンを打ち負かす力があることを説明する。義にかなった生活を送ることによりサタンを打ち負かすことができることを証する。

あなたは自分をもっと好きになりたいですか。
自信を持ちたいですか。
今年のミューチャルのテーマは、
そんなあなたのためのものです。

真の自信

中央若い女性および中央若い男性会長会

だれもが時折、不安な気持ちと闘います。次のように自問したことはないでしょうか。「もっと自信を持つにはどうしたらよいのだろう。」「どうしたらもっと自分を好きになれるだろう。」

聖文の中に的確な答えがあります。こう書かれています。慈愛を持ち、「絶えず徳であなたの思いを飾るようにしなさい。そうするときに、神の前においてあなたの自信は増〔す〕であろう。」(教義と聖約121:45) これが真の自信です。神の前において自分に自信があるのなら、だれといても自信を持っていられます。

「では、徳とは何だろうか」と思うことでしょうか。大管長会第二顧問のジェームズ・E・ファウスト管長は、徳という言葉には、道徳的に優れていること、正しい行動と正しい考え、人格的に優れていること、純潔など、様々な意味があると語りました。¹

では、実際にどうしたらよいのでしょうか。何か手引きのようなものはあるのでしょうか。確かにあります。『若人の強さのために』に書かれている原則と教義は、あなたが聖霊を伴^はりとするにふさわしい決定をすることができるよう導いてくれます。聖霊とともにいるなら、ある意味であなたは神とともに生活しているのです。主の御霊^{みたま}を送ってくださるほどに、天の御父はあなたを信頼しておられるのです。そのことを考えてみてください。

あなたが『若人の強さのために』に説明されている標準に従って生活するならば、主は「あなたの機

2007年 ミュチャルのテーマ

「絶えず徳でああなたの思いを
飾るようにしなさい。
そうするとき、神の前において
あなたの自信は増〔す〕であろう。」
(教義と聖約121:45)

会を増し、視野を広げ、あなたを強く²すると約束されています。あなたはますます徳高くなり、ますます自信を深めるでしょう。

ただし、気をつけてください。世間では、自信をつけるためにこの方法を取るようには教えていないからです。この世では、自信をつけるためには他人より秀^{ひい}でなければならないとされています——ほかの人よりも多くの物を持ち、より多くの才能、知性、人気を得なければならないと教えています。これはまったく正しくありません。それは偽りの自信です。

主の標準は世の標準とは異なります。この世は外見に注目しますが、「主は心を見る」(サムエル上16:7)のです。あなたは神の子供で、あなたが神から受け継いだ資質は、ほかの人よりも優れているわけでも劣っているわけでもありません。事実、あなたを含め、すべての人には異なった才能と能力が備わっています。これらは、各人の地上での使命を果たすために与えられた御霊の賜物^{たまもの}です。天の御父は、あなたが幸福であるとともに、成長し、天の御父が期待しておられるような人になってほしいと願っておられます。

人生で困難に直面したときには、聖典の中の英雄について考えてみてください。モーセのように祈り、自分が神の子だということを思い出す

と、力が得られます(モーセ1:13, 20-22参照)。ニーファイは主を信頼するもう一つの良い模範です。ニーファイは、きょうだいとともに真^{しんちゆう}鍬版を取りに行くように命じられたとき、主の助けがあれば成し遂げられることを確かに知っていました。ニーファイはこう言っています。「わたしは行って、主が命じられたことを行います。主が命じられることには、それを成し遂げられるように主によって道が備えられており、それでなくては、主は何の命令も人の子らに下されないことを承知しているからです。」(1ニーファイ3:7) ニーファイは、徳高い生活を送ることにより自信を得ていました。

モーセやニーファイをはじめとする多くの人々のように、あなたが徳高い生活を送るならば、自信をもって地上での使命を果たせるでしょう。そしてその自信はさらに「増す」でしょう。わたしたちは、「絶えず徳で〔自らの〕思いを飾る」すべての人に、本物の自信が与えられることを知っています。■

注

1. 「天使に近い者となるために」
『聖徒の道』1998年7月号、
103参照
2. 「若人の強さのために」42



中央若い女性会長会——スーザン・W・タナー(中央)、
ジュリー・B・ベック(左)、イレイン・S・ダルトン(右)。

中央若い男性会長会——チャールズ・W・ダークキスト2世(中央)、
ディーン・R・バージェス(左)、マイケル・A・ナイダー(右)。

しんちゅう
真 鑰版を
取りに行くように
命じられたときの
ニーファイの返事は、
すべての人の
良い模範です。
「わたしは行って、
主が命じられたことを
行います。
主が命じられることには、
それを
成し遂げられるように
主によって
道が備えられており、
それでなくては、
主は何の命令も
人の子らに
下されないことを
承知しているからです。」

わたしにはできる！ 自信を増す方法

さらに自分に自信を持ちたい人のために、幾つかの方法を紹介します。

- 祈る。モーセのように祈るなら、主はあなたが神の子であり、あなたには大切な務めがあることを思い出させてくださるでしょう。
- 自分の長所や良い資質を書き出す。
- 自分の祝福師の祝福文を読んで深く考える。あるいは、祝福師の祝福を受ける備えをする。
- だれかに奉仕し、そのときの気持ちを日記に書く。
- よく食べ、体を動かす。肉体は神からの贈り物です。また、十分な栄養を取り、運動すると、気持ちが前向きになって自分をもっと好きになります。
- 感謝の祈りをささげ、何に感謝したかを日記に書く。
- 才能を伸ばす。
- 戒めを守る。

自信は、ほかの人よりも秀でることによって得られるものではないことを心に留めておきましょう。自分が神の子であることを知り、神がしてほしいと思っておられることを行うことにより、自信は得られるのです。

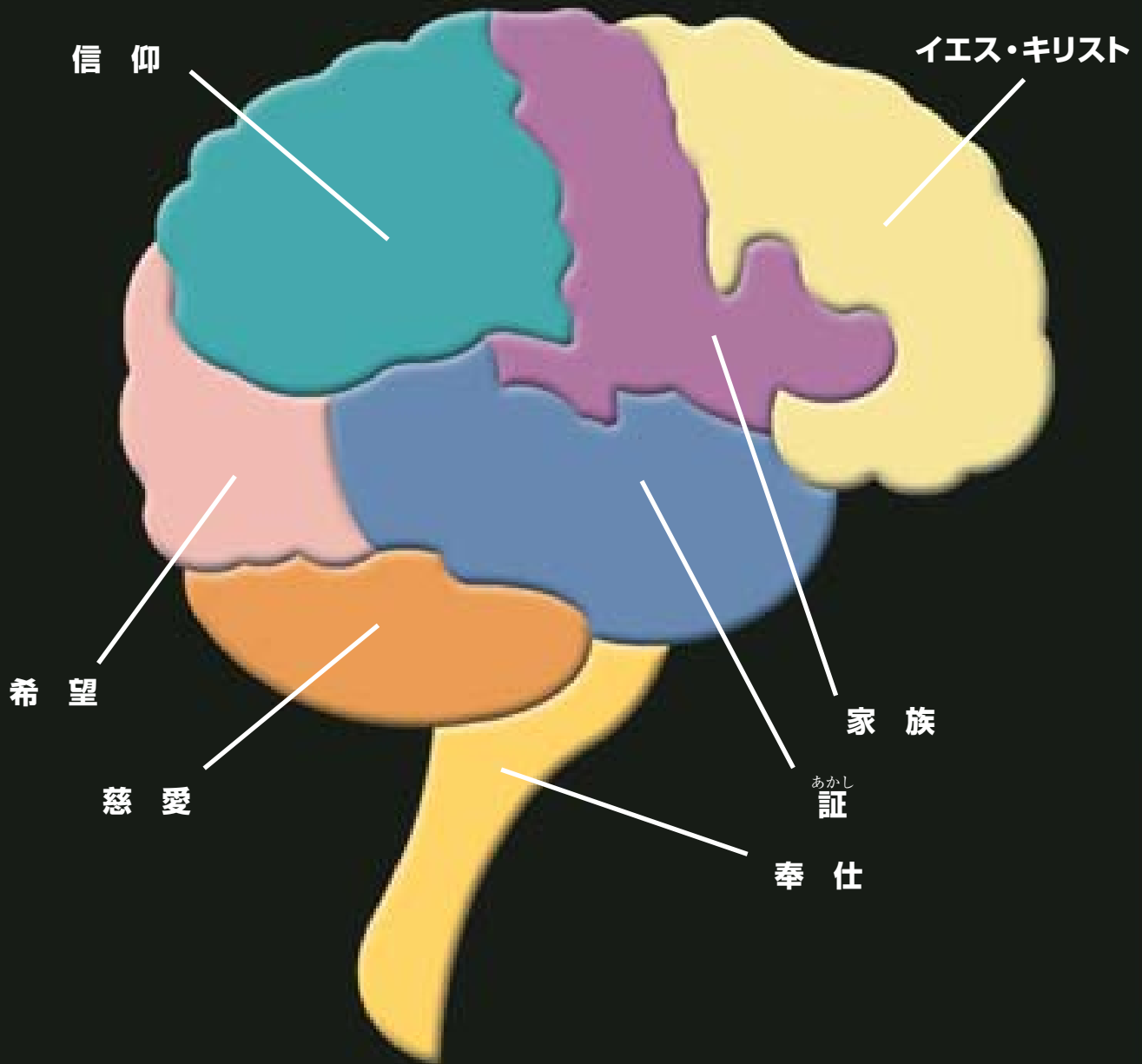
絶えず良い思いを持つには どうしたらよいか

以下は、徳であなたの思いを飾るために、ミューチャルの活動や家庭の夕べで活用できるアイデアや話し合いのテーマです。

- 聖句ガイドの「思い」と「徳」の項目を読む。
- 信仰箇条第13条を暗唱するか読み直す。あなたにとってどのような意味があるだろうか。「これらのことを尋ね求める」方法を具体的に書き出す。
- 徳や徳高いという言葉の同義語を書き出す。これらの言葉をどのように生活に応用できるだろうか。
- 清いとはどのような意味だろうか。飲み水が清くなければならないのはなぜだろう。なぜ思いを清く保つ必要があるのだろうか。
- 創世記第39章の、ポテパルの妻から逃げたヨセフの話を読む。あなたはどのようなときに逃げたりその場を離れたりする必要があるだろうか。どうすれば、世にあって世のものとならないでいられるだろうか。

- 同じワードの若い女性、若い男性の好きな聖句や言葉を収めた小冊子を作る。
- 「今週の聖句」を選び、毎日見る所にはる。毎週一つ暗記し、今年中に52の聖句を覚える。マスター聖句を覚えることにすれば、全マスター聖句の半分を1年で覚えることになる。
- 神を冒瀆する言葉を使わないと決意する。
- 定員会やクラスで、いかなる種類のポルノグラフィをも避けることを決意する。そうするに当たって、どのように助け合えるだろうか。
- 家族で、愛を示す方法を決め、前向きな言葉と行いで互いに助け合う。
- 『若人の強さのために』の中の「娯楽とメディア」と「言葉遣い」の項を読んで研究する。この項に出てくる「御霊」という言葉に線を引く。これらの標準に従って生きるときに、聖霊がどのように生活に祝福をもたらしてくれるかを書き出す。
- 定員会やクラス、家族で、インターネットやメディアを安全に視聴する方法について話し合う。
- 「聖きを主に捧ぐ」という言葉が神殿に刻まれている。徳高い思いを抱くことがどのように神殿に参入する備えとなるか話し合う。できれば神殿に参入し、死者のためのバプテスマを受ける。
- 好きな賛美歌を二つ暗記してハミングするか歌えるようにし、悪い思いが生じたら、靈感をもたらす賛美歌の言葉でその思いを一掃する。
- 『神への務めを果たす』または『成長するわたし』のプログラムに取り組む。特に、『神への務めを果たす』の中の「霊的な面での成長」の項目または『成長するわたし』の中の「徳質の体験——『誠実』」の項目は、清さと「絶えず徳であなたの思いを飾ることにより得られる祝福についての理解を深めてくれる。

あなたの頭には 何が入っていますか？



「絶えず徳であなたの思いを飾るようにしなさい。
そうするときに、神の前においてあなたの自信は増すであろう。」
(教義と聖約 121 : 45)

イヤリング

妻が金のイヤリングをなくした翌日、イヤリングよりもはるかに大切なものを失っていたことに気がつきました。

ビクトル・マカロフ

以前に、わたしは妻の誕生日にすてきな金のイヤリングをプレゼントしました。そのイヤリングは大きさの異なる輪がゆらゆら揺れ、太陽の光に反射してきらきらと光ります。妻エレナの優雅でほっそりした首にとてもよく映え、このイヤリングを着けた妻は、それは魅力的でした。そしてこのイヤリングをこの上なく気に入っていました。

やがて最大のお祝いである、支部のクリスマスパーティーの日がやって来ました。わたしたちの支部はロシアのペンザにあります。わたしはこの活動の責任者になっていたので急いで支度をし、一刻も早く会場へ行って準備がすべて整っていることを確かめたいと思いました。ところがエレナは急ぐ様子もなく、入念に身支度をしています。わたしは忍耐が限界に達し、化粧なしでも十分美しいのだから、もう化粧をやめるようにと言いました。これが大間違いでした。妻がもうどこへも行きたくないから、パーティーには独りで行くようにと言ってきたのです。

こうして口論が始まり、互いに悪意をむき出しにして傷つけるような言葉を言い合いました。結局、妻はわたしと一緒に家を出ましたが、パーティーへ行く途中の車の中では、まるで知らない人といることのように一言も言葉を交わしませんでした。


支部のクリスマスパーティーは近くにある学校の大講堂で行われました。会場には友人や支部の会員の手で、

主の生涯と死にまつわる絵や花が飾られました。講堂に到着して席に着いたとき、妻はイヤリングが一つなくなっているのに気づきました。予想外の出来事に、それまでの口論はどこかに飛んで行ってしまいました。二人で辺りを捜してみましたが、無駄でした。イヤリングはどこにもありません。そこで、二人で心を決めました。とにかく今はイヤリングのことは忘れて、友人が準備したコンサートを楽しもう、すばらしいものになるはずだから、と。

コンサートは実際とてもすばらしいものでした。けれども、妻もわたしも十分に楽しむことはできませんでした。せつかくの一日が台なしになって、二人は意気消沈して家に帰りました。そしてイヤリングをなくしたことをとても残念に思いました。イヤリングは美しく高価なもので、何よりも愛を込めてわたしが妻に贈った物だったからです。

翌日目が覚めたとき、わたしは金のイヤリングよりもはるかに大切なものを失っていたことに気がつきました。二人の一体感をなくしていたのです。わたしはエレナに向かって言いました、「このイヤリングを見てごらん。一つしか残っていないけれどとてもきれいで、光が当たってきらきらしている。これを作るのにどれだけの金を使い、どれだけの手間がか





けられているか、考えてもごらんよ。なのに今は一つぼつんとテーブルにあるだけだ。一方をなくしてしまっちは、両方そろっていたときよりも価値がはるかに落ちてしまった。わたしたちもこれと同じようなものだ。二人が一致しているときには、善なるものに対する美しく、力強く、想像力にあふれた力となることができる。でも一致していなければ、強さも力も、美しさも、同じように発揮することはできないんだ。」

妻の目に涙があふれてきました。妻は近づいて来てわたしを抱き締め、震える声で話し始めました。その言葉に、感動が体中に広がりました。「二度と口げんかなんかしてはいけないわね。天の御父と御子イエス・キリストのようにならなければね。わたしたちは愛し合っているのよ。それに聖なる神殿で結婚し、永遠に結び固められたわ。サタンは地上の家族を全部滅ぼそうとしているけど、わたしたちが一致していれば、サタンがわたしたちを滅ぼすことはできないのよ。今回のことで、あなたに対する愛はさらに深くなったわ。家族がどんなものかを神様が教えてくださったのね。」

妻を抱き締めるわたしの頬ほおに、涙がとめどなく流れました。そのとき、わたしは自分にとって最高の祝福をこの腕うでに抱き締めていることを悟ったのです。■



霊的な知識の探求



十二使徒定員会会長代理
ボイド・K・パッカー会長

神は
実在しておられます！
神は生きておられます！
どのように
知っているのかを
言葉だけで説明するのは
難しいのですが、
わたしはそのことを
聖霊の力によって
知っているのです。

中 央幹部に召される前に経験したある出来事から、わたしは大きな影響を受けました。あるとき飛行機で、無神論者を自認する男性の隣の座席になりました。神は存在しないと執拗に主張する彼に、わたしはこう証しました。「それは違います。神はおられます。わたしは神が生きておられることを知っています！」

彼は反論しました。「知っているですって。そんなことを知っている人がいるもんですか！あなたが知っているはずがないでしょう！」その無神論者の男性は弁護士でもありましたが、わたしがどうしても折れないのを見ると、証というテーマに関して究極的とも言える質問をしました。彼はあざけるような態度で、わざと丁寧な口調でこう言いました。「そうですか。では、知っているとおっしゃるなら、どのように知っているのか説明してくださいませんか。」

わたしは答えようと試みましたが、高い学位を持っていたにもかかわらず、うまく伝えることができませんでした。

御霊や証という言葉を使うと、その無神論者の男性は「おっしゃることが理解できません」と言うのです。祈り、識別、信仰という言葉も彼にとってはまったく無意味でした。「ほらね、ほんとうはあなたも知らないんですよ。もし

知っていたら、どのように知っているのか説明できるはずですよ。」

ひょっとしたら、証をしない方がよかったのでしょうか。わたしはどうしたらよいか分からなくなりました。そのとき、わたしは特別な経験をしました！何かが心に注がれてきたのです。預言者ジョセフ・スミスはこう述べています。「人は、啓示の霊の最初のささやきを自覚しただけで祝福を受ける。例えば清い知識が心に流れ込むのを感じたとき、あなたがたの心には、いろいろな考えが閃光のように次から次へと浮かんでくるだろう。……そして神の御霊を学び、理解することによって、あなたがたは次第に啓示の原則を知るようになり、やがてイエス・キリストにあって完全な者となるであろう。」¹

そのとき浮かんだ考えを、わたしはその無神論者の男性に言いました。「ではお尋ねしますが、塩がどんな味が御存じですか。」

「当たり前ですよ。」

わたしは続けました。「では、わたしが塩を一度も味わったことがないと仮定して、塩がどんな味が説明していただいけませんか。」

彼は少し考えてから言いました。「ええっと、あの、甘くなくて、酸っぱくもなく。」

「それでは、どんな味ではないと言っているだけで、どんな味がするかについての説明に



靈的な事柄は強制できない

すでに明らかにされているものをすべて用いる

自分の証^{あかし}を過小評価しない

証を述べることによって証を得る

主の業を行う

御靈^{みたま}によって学ぶ

はなっていませんよ。」

彼は何度か説明を試みましたが、できませんでした。塩の味というごく当たり前のことなのに、言葉だけでは説明できなかったのです。わたしはもう一度証しました。「わたしは神が実在されることを知っています。あなたはその証をあざけり、わたしがそれを知っているなら、どのように知っているのか説明できるはずだとおっしゃいました。靈的な意味で、わたしは塩を味わったのです。厳密にどのように知っているのかを言葉で説明することはできませんが、それはあなたが塩の味を説明できないのと同じことです。しかしもう一度申し上げますが、神は実在の御方です！生きておられるのです！あなたがそれを知らないからと言って、わたしまで知らないとはおっしゃらないでください。わたしは知っているのですから！」



霊的なことであれ、
この世的なこと
であれ、
すでに得ている知識に
取って代わる啓示を
求めるべきでは
ありません。
御霊は
わたしたちの
注意を引くために
大声を出したり、
荒々しく
揺すったりはしません。
預言者サムエルに
したのと同じように、
ささやくのです。

である。また、御霊によって判断されるべきであるから、彼はそれを理解することができない。」(1コリント2：13-14)

静かな細い声

聖文に描かれている御霊の声は「大きな声」でも「耳障りな声」でもありません(3ネーファイ11：3)。「雷のような声ではなく、大きな騒々しい音でもなく、まるでささやきのような、まったく優しい静かな声であり、それでいて心の底までも貫[き]ます(ヒラマン5：30)。そして「[聞く人]の心を燃え上がらせ[る]」のです(3ネーファイ11：3)。エリヤには、風の中にも、地震の中にも、火の中にも、主の声が聞こえませんでした。「静かな細い声」だったからです(列王上19：12)。

御霊はわたしたちの注意を引くために大声を出したり、荒々しく揺すったりはしません。ささやくのです。そっと撫でるような感じなので、ほかのことに気を取られていると、まっ

別れ際に彼はこうつぶやきました。「あなたが信じている宗教に頼らなくてもやっていけます。わたしには必要ありません。」

それ以後、自分が知っている霊的な事柄を言葉で説明できなくても、わたしはまごついたたり、恥じたりしなくなりました。このことを使徒パウロは次のように述べています。

「この賜物^{たまもの}について語るにも、わたしたちは人間の知恵が教える言葉を用いないで、御霊の教える言葉を用い、霊によって霊のことを解釈するのである。

生まれながらの人は、神の御霊の賜物を受けいれない。それは彼には愚かなものだから

たく感じられないかもしれません。

ときには強く注意を促すこともあります。しかし、ほとんどの場合、静かなささやきに心を傾けていないと、御霊は離れてしまいます。そして、わたしたちが求め、耳を傾け、自分自身の行いと言葉を通して、古代のサムエルのように「しもべは聞きます。[主よ]お話しください」(サムエル上3：10)と言うまでは、御霊は訪れません。

霊的な事柄は強制できない

ほかにも学ぶべき事柄があります。力ずくで証を得ることはできません。証はゆっくり成長していくものなのです。人が成長すると背丈が伸びていくように、証も徐々に成長します。少しずつなので、その成長に気づくことはほとんどありません。

霊的な事柄は強制できません。強いる、強要する、押し付ける、圧力をかける、要求するという言葉は、わたしたちの特権である御霊を表現してはなりません。わたしたちは御霊に答えをくれるように強いることはできません。それはちょうど、豆に芽を出すように強制したり、卵に孵化するように強要したりするようなものです。わたしたちにできるのは成長を促す環境を作り、養い、守ることです。強制することはできません。成長するまで待つのです。

霊的に優れた知識を得るのにあせりは禁物です。自然に育つに任せてください。成長を助けてください。無理なことをすると、誤った方向にそれることになります。

すでに明らかにされているものをすべて用いる

わたしたちはすでに自分が得ている光と知識を用いて、問題を解決するように期待されています。自分の義務を知るために啓示を求めるべきはありません。すでに聖文で教えられているからです。また霊的なことであれ、この世的なことであれ、すでに得ている知識に取って代わる啓示を求めるべきではありません。啓示は知識を拡大するためにあるのです。わたしたちは人生を律する決まり、規則、規定に従って、ごく普通の一般的な方法で人生を歩まなければなりません。

規則や決まり、戒めは、強力な防護手段です。もしも進路を変えなさいという啓示が必要であるとすれば、道の途中で実際に進路を変える必要のある地点に差しかったときに、その啓示が与えられるでしょう。「熱心に善いことに携わ[りなさい]」という勧告は、確かに賢明です(教義と聖約58：27参照)。

自分の証を過小評価しない

すべてのことを知らないからといって、気後れすることも、恥じることもありません。ニーファイはこう言っています。「わたしは、神がその子供たちを愛しておられることは知っていますが、すべてのことの意味を知っているわけではありません。」(1ニーファイ11：17)

皆さんの証には、自分で気づいているよりも大きな力があるかもしれません。主はニーファイ人に言われました。

「打ち砕かれた心と悔いる霊をもってわたしのもとに来る者に、わたしはレーマン人に授けたように、火と聖霊によってバプテスマを授けよう。レーマン人は改心したときにわたしを信じたので、火と聖霊によるバプテスマを受けた。しかし、彼らはそれを知らなかった。」(3ニー

ファイ9：20, 強調付加)

何年前か前、わたしは遠い異国の地で伝道している息子に会いました。伝道に出て1年経ったところです。息子は初めにこう聞いてきました。「父さん、霊的に成長するにはどうしたらいいか教えてください。そうなれるように一生懸命やってきたけれど、ちっとも変わらないのです。」

それが彼の自己評価でした。しかし、わたしの評価は違いました。たった1年の間にこんなに成熟し、霊的に成長したのが信じられないほどでした。彼の場合、成長が一つ一つの積み重ねであり、目を見張るような霊的な体験をしなかったために、「それを知らなかった」のです。

証を述べることによって証を得る

次のように言う宣教師は決して珍しくありませ

わ たしたちは
御霊に答えを
くれるように
強いることはできません。
それはちょうど、
豆に芽を出すように
強制したり、
卵に孵化するように
強要したりするような
ものです。
わたしたちにできるのは
成長を促す環境を作り、
養い、守ることです。
強制することは
できません。
成長するまで待つのです。



堂々と述べることで、自分の信仰を試すことができます。真実であってほしいと望むことを証してください。信仰を行いで表すつもりでするのです。



ん。「まだ証がないのに、どのように証したらよいのですか。どうしたら、神が生きておられ、イエスがキリストであり、福音が真実であると証できるのですか。そのような証がまだないのに、証をするなんて、不正直ではないでしょうか。」

次の原則をぜひ覚えてください。つまり、証は実際に証をしていく中で得られるものであるということです。霊にかかわる知識を求めていると、いつか、哲学者の言う

『信仰の飛躍的成長』を経験するときが来ます。

そのとき人は、光と闇の境目にやって来て、闇の中に足を踏み入れてみると、一、二歩先が照らされるという経験をします。聖文に記されているように、確かに、「人の魂は主のともしび」なのです（箴言20：27）。

心に燃え上がる火

タイラー・アンドラス

わたしは15歳になるまで、人前で証を述べることができませんでした。福音が真実であることに疑いを持ったことはありませんでしたが、教会とモルモン書に対して自分の証を持つようになったのは、セミナーに出席するようになった最初の年のことでした。

セミナーの1年目が終わった夏のこと、ステーキのコースカンファレンスがキャンプ場で開かれました。カンファレンスの最後は証会でしたが、証を述べるつもりは毛頭ありませんでした。すると間もなく、立ち上がって証を述べるようにと御霊がささやき始めました。その気持ちを抑えようとしたのですが、立ち上がるべきだという思いはなくなりませんでした。ついにわたしは証を述べる決意をしました。証を述べると、とても温かい気持ちがわいてきてきました。とても温かくて、まるで体の内側が燃えているようでした。心の中で火が燃え上がったのです。

それ以来、証を述べることの大切さを学びました。証を述べる度に、証が強くなります。証を述べることを生涯の習慣にしたいと思います。■

本を読み、人の話を聞いて証を得るのは最初の段階として必要です。しかしそれは、自分が証したことが真実であるという確認を御霊から自分の心に与えられることとは、次元が違います。証は、人に分かち合うときに得られるということが理解できるでしょうか。自分が持っているものを与えるなら、その代わりに、さらに多くが与えられるのです！

堂々と述べることで、自分の信仰を試す

真実であってほしいと望むことを証してください。信仰を行いで表すつもりです。それは一種の実験です。預言者アルマも、彼に従う者たちに似たような実験をするようにと教えました。まず信じることから始めるのです。最初から物事を完全に知る必要はないのです。アルマ書第32章のあの説教は、聖典の中で最



も偉大な教えの一つです。それは真実を探し求め始めたばかりの人、心のへりくだっている人に向けられています。その教えは、真実に対する証を得るための鍵^{かぎ}なのです。

キリストの御霊と証は、おもにそれを人と分かち合うときに、与えられ、保たれます。この原則こそ、まさに福音の真髄なのです。

これこそ、クリスチャン信仰の完全な表現ではないでしょうか。証は自ら進んで分かち与えるまでは、そして分かち与えなければ、得ることも、保つことも、成長させることもできません。証を惜しみなく分かち合うことによってこそ、証を自分のものとすることができるのです。

主の業を行う

この業にはすばらしい力、霊的な力があります。皆さんのような普通の会員が、確認の儀式を通して聖霊の賜物を受けることにより、主の業を行うことができるのです。

何年も前に、友人が伝道中の経験について話してくれました。当時17歳だった彼とその同僚は、アメリカ南部のとある小さな家の前に立ち止まりました。彼にとって、それは伝道の初日であり、最初の家でした。網戸の向こう側に立った白髪まじりの女性が何の用かと尋ねました。同僚から何か言うようにつかれた彼は、おびえて、少し口ごもりながら、出し抜けにこう言いました。「神がかつて人であられたように、人もいつか神のようになれる。」

不思議なことに彼女は興味を持ち、それはだれの言葉かと尋ねました。彼は、「聖書にあります」と答えました。すると、彼女はいったん奥に入り、聖書を手にして戻って来ました。そして彼女は聖職者で、集会で説教もしていると告げ、彼に聖書を渡して言いました。「さあ、どこにあるのか見せてください。」

彼は聖書を受け取り、緊張しながらページをあちこちめくりました。やがて、彼は聖書を返して、こう言いました。「見つかりません。聖書にあるのかどうかははっきり分かりません。もしあるとしても、見つけることはできないでしょう。わたしはユタ州キャッシュ・バレーから来た貧しい農家の息子です。あまり教養もありません。でもわたしの家族はイエス・キリストの福音を守って生活しています。わたしの家族は福音から大きな助けを受けてきました。ですからわたしは、福音についてわたしが感じていることを人々に伝えるため

奇跡の時代は
終わって
いません!

教会には
霊的な賜物^{たまもの}があります。
中でも聖霊の賜物は、
この上なくすばらしい
賜物なのです!

に、自費で2年間伝道するという召しを受け入れたのです。」

彼女はドアを開いて、言いました。「どうぞ、中へ入って、あなたの話を聞かせてください。」半世紀前のその経験を、彼は涙ながらにわたしに語ってくれました。

御霊によって学ぶ

お話ししたいことは、まだまだたくさんあります。祈り、断食、神権と権能、ふさわしさについてもお話ししたいところです。どれも啓示に不可欠な要素です。これらが理解できたとき、すべてが一つとなって、完全に作用するのです。しかし個人的に、独りで、御霊によって学ばなければならない事柄もあります。

あまりにも神聖で口にすることができない経験を通して、わたしは神が生きておられること、イエスがキリストであること、確認の儀式のときに授けられた聖霊の賜物が神からの賜物であることを知っています。モルモン書は真実です! この教会は主の教会です! イエスはキリストです! わたしたちは神の預言者によって導かれています! 奇跡の時代は終わっていません! 天使たちは今でも現れて人に仕えています! 教会には霊的な賜物があります。中でも聖霊の賜物は、この上なくすばらしい賜物なのです! ■

1982年6月25日、新伝道部長セミナーにおける説教から

注

1. *History of the Church*, 第3巻, 381

すべてのものが 主の^{あかし}ことを証する

アダム・C・オルソン
教会機関誌

主は道であり、光であって、命のパン、生ける水、隅のかしら石です。救い主は新約聖書に記された働きをしておられた間、御自分が神から与えられた役割と教えを、分かりやすい概念を用いて教えられました。

ドイツのヤングアダルトも「すべてのものが〔イエス・キリスト〕の^{あかし}ことを証する」ことを学びました(モーセ6:63)。彼らは主への証を次のように述べています。

道

「トマスはイエスに言った、『主よ、どこへおいでになるのか、わたしたちにはわかりません。どうしてその道がわかるでしょう。』」

イエスは彼に言われた、『わたしは道であり、真理であり、命である。だれでもわたしによらないでは、父のみもとに行くことはできない。』(ヨハネ14:5-6)

ルネ・ツイロン

「わたしの家族は全員が教会員というわけではありませんでした。ですから育つ過程で、どの道を選ぶかを早い段階で決めなければなりません。母が聖書から話してくれた話に心を打たれました。母の生き方を見ていましたし、父の家族の生き方も見ていました。尊敬

する教会員が何人もいて、その人たちの生き方も見ていました。わたしは教会員が救い主の道を歩んでいることを確信していたので、バプテスマを受けることにしました。

今では何かを決めるときは、主から学んだことを思い出して、主に倣うように努力しています。主は、よりすばらしい道を示してくださいました。主は、わたしたちが自分の特質を伸ばして、それをよく表現できるように助けてくださいます。もし変わることができなければ、惨めだろうと思います。でも、主に頼れば、変わることを知っています。」

「わたしは戸の外に立って、たたいている」

「見よ、わたしは戸の外に立って、たたいている。だれでもわたしの声を聞いて戸をあけるなら、わたしはその中にはいって彼と食を共にし、彼もまたわたしと食を共にするであろう。」(黙示3:20)

ルネ・ツイロン

「救い主が戸をたたいておられるのは、わたしたちを愛してくださっているからです。与えるものをたくさん持っておられるのにもかかわらず、主のために戸を開けるかどうかの選択をわたしに任せてくださっています。主はわたしを教え、わたしの長所を強めて、短所を克服できるように助けてくださいます。

柔和な心で、主の教えを受け入れるならば、戸を開けることができます。教えを受け入れ、



ルネ・ツイロン



主は道である



あがな 贖い主

の岩

自分には変えなければならないことがあると認めれば、戸を開けることができます。

主が戸の外に立っておられるのをいつも気づくことができるように願っています。なぜなら、戸をたたくのは主だけではないからです。わたしは主と同じことをするように求められています。つまり、だれかを見つけて主のもとへ行くように招くのです。わたしたちを通して、その人たちは主をかいま見ることができるのです。」

贖い主の岩

「それで、わたしのこれらの言葉を聞いて行うものを、岩の上に自分の家を建てた賢い人に比べることができよう。

雨が降り、洪水が押し寄せ、風が吹いてその家に打ちつけても、倒れることはない。岩を土台としているからである。」(マタイ7：24-25)

「あなたたちは、神の御子でありキリストである贖い主の岩の上に基を築かなければならないことを覚えておきなさい。……それが……堅固な基であ[り]、人がその上に基を築くならば、倒れることなどあり得ないからである。」(ヒラマン5：12)

マイケ・アドラー

「わたしは教会員として育ちました。でも、14歳くらいのときに、人生で進む道について、どれほど深く決意しているかを自分で判断しなければなりません。いつも誘われているパーティーに友だちと行くか、それともセミナーに

行くかです。わたしは両親と話をし、祈ってみました。そして、証を得て、セミナーに行くべきだと分かりました。

救い主がいらっしゃらなかったら、わたしの人生は、友だちも価値観も、まったく違うものになっていたと思います。自分が生きている理由も知らなかったでしょう。助言してくれる人はたくさんいますが、世の価値観や道徳観は移り変わります。堅固でなく移り変わるものの上に自分を築くとしたら、その度に自分を再構築しなければなりません。いつまでも変わるものの上で自分を築かなければならないのです。キリストは変わることがありません。主の正義はいつでも変わらず正義なのです。主に頼ることができるのです。主は、わたしたちが倒れるようには決してなさらないのです。」

世の光

「イエスは、また人々に語ってこう言われた、『わたしは世の光である。わたしに従って来る



マイケ・アドラー

者は、やみのうちを歩くことがなく、命の光をもつであろう。』(ヨハネ8：12)

ヤン-ダビド・ポーレーベン

「主の福音は、生きるうえで確かな方向を示してくれる光です。わたしはしっかりとその光の方向に向かって歩み、そこから離れないようにすればいいのです。主の教えを通して、地上に生を受けた理由が分かります。主の贖いによって、わたしたちは悔い改めて神のもとへ戻ることができます。今は、前よりも言動に気

を遣うようになりました。

キリストの教会の会員であれば、独りきりということはあり得ません。いつも助けがあります。主は慰めを与え、困難なときには助けの手を差し伸べてくださいます。誠心誠意祈るならば、選ぶべき事柄を教えてください。主に従うことによって、わたしの生活は変わりました。」

生ける水

「イエスは答えて言われた、『もしあなたが神の賜物のことを知り、また、『水を飲ませてくれ』と言った者が、だれであるか知っていたならば、あなたの方から願い出て、その人から生ける水をもらったことであろう。』……

『わたしが与える水を飲む者は、いつまでも、かわくことがないばかりか、わたしが与える水は、その人のうちで泉となり、永遠の命に至る水が、わきあがるであろう。』(ヨハネ4：10, 14)

ヤスミン・ツァナルド

「福音が与えられていることに感謝しています。わたしには教会員でない友だちがたくさんいて、その人たちからこう言われます。『神様についてはあまり知らないけど、あなたの生き方を見ていると、感心するわ。』自分が付き従えるものがあることに、とても感謝しています。友だちにはそれがありません。友だちはまだ、渴いているのです。



ヤン-ダビド・ポーレーベン



世の光

命のパン

ほかの人も主を知ることができるように、わたしたちはキリストの証人にならなければなりません。そうすれば、その人たちは主のもとに行って、永遠の命に至る水を飲むことができるからです。」

隅のかしら石

「ところが、あなたがたは、このように以前は遠く離れていたが、今ではキリスト・イエスにあって、キリストの血によって近いものとなったのである。……

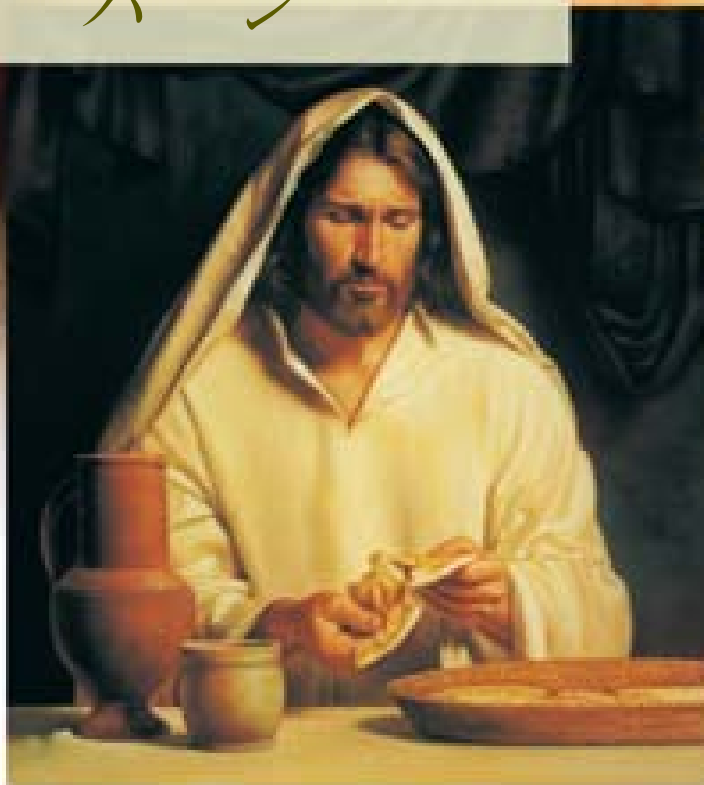
そこであなたがたは、もはや異国人でも宿り人でもなく、聖徒たちと同じ国籍の者であり、神の家族なのである。

またあなたがたは、使徒たちや預言者たちという土台の上に建てられたものであって、キリスト・イエスご自身が隅のかしら石である。

このキリストにあって、建物全体が組み合わされ、主にある聖なる宮に成長〔するのである。〕』（エペソ2：13、19-21）

ヤスミン・ツァナルド

「この世は混乱しています。世が与えるものが十分ではないからです。ある程度の真理を持つ宗教はたくさんあります。でも、わたしたちの福音は完全です。わたしたちの土台は堅固なのです。」



命のパン

「イエスは彼らに言われた、『わたしが命のパンである。わたしに来る者は決して飢えることがなく、わたしを信じる者は決してかわくことがない。』（ヨハネ6：35）

ヤスミン・ツァナルド

「わたしは教会員の家庭に生まれましたが、だれでもいつかは、教会が真実かどうかを、自分自身で見いださなければなりません。わたしは12歳のときに知りたいたいと思ひ、答えを見つけることができました。イエスの贖いのおかげで、力がわいてきました。何度か遭った難しい試練を通して、救い主がどなたで、わたしたちのために何をしてくださったのを知り、慰めを受けてきました。わたしたちに対する主の愛はほんとうにすばらしいものです。わたしたちのためにご自身を犠牲にされたのです。主はわたしの命です。」■



ヤスミン・ツァナルド

主の御手に使われる者となる



以下のメッセージから訪問先の姉妹たちの必要に合った聖句や教えを祈りの気持で選び、読んでください。自分の経験や証^{あかし}を伝え、あなたが教える人々にも同様に分かち合うように勤めてください。

「主の御手に使われる者となる」とはどのような意味でしょうか？

アルマ26：3—「わたしたちがこの大なる業を成し遂げるために、神の御手に使われる者とされたことは、わたしたちに与えられた祝福である。」

中央扶助協会会長 ポニー・D・パーキン—「神の御手に使われる者になるとは、簡単に言うとどんなことでしょうか。それは、人を養い育てることだとわたしは思います。ジョセフ・スミスはそれを、わたしたちに宿る『思いやりの心に従って』行動することと呼んでいます。……神の御手に使われる者となる方法は数限りなくあります。例えば、こんな人に担当になってほしいとずっと望んできたような訪問教師に皆さん自身がなってください。ヤングシングルアダルトの姉妹になぜ結婚しないのかと聞く代わりに、何をすることが好きかを尋ねてください。蓄えようとする代わりに、分かち合ってください。服装や言葉遣い、娯楽を注意深く選んでください。夫や子供に笑顔を見せてください。彼らは、皆さんをいらいらさ

せ傷つけるのは自分だと分かっているのです。若い女性を抱きしめてあげてください。託児クラスで、喜びの心をもって教えてください。人生の旅路に喜びを見いだしていることを態度で示しましょう。」（「すばらしい瞬間』『リアホナ』2005年11月号, 107, 109）

中央扶助協会第一顧問 キャサリン・H・ヒューズ—「主はこれまで何度もわたしの心を動かされましたが、それは往々にして、友の手を通じて、つまり友を仲立ちとしてなされました。……思いやりを示してくれる人の行いの中に主の御手を見いだそうとするなら、主の愛をもっと身近に感じられるのではないのでしょうか。……神はその子供たちの必要を御存じです。そしてしばしば、わたしたちを通して、助け合うように促されるのです。このような促しに従って行動することは、聖なる地を歩くことになります。だれかの祈りにこたえて神の代理人として奉仕する機会を与えられることになるからです。」（「キリストのような友、これに勝る恵みはない』『リアホナ』2005年5月号, 74 - 76）

主の御手に使われる者として、わたしに何ができますか？

大管長会第二顧問 ジェームズ・E・ファウスト管長—「皆さんはこの偉大な業を成し遂げるために、神の御手に使われる力強い者となることができます。……

周りの人のために皆さんにしかできないことがあります。……『心をつくし、精神をつくし、力をつくし、思いをつくして』神を愛することができれば、また『自分を愛するように、あなたの隣り人』〔ルカ10：27〕を愛することができれば、この祝福と慰めを与える平安が、皆さんに注がれるでしょう。……いつもしているように最善を尽くしたなら、その謙遜なささげ物は、

どのようなものであっても、主に受け入れられ、喜ばれます。」（「神の御手に使われる者』『リアホナ』2005年11月号, 115 - 116）

ゴードン・B・ヒンクレー大管長

—「わたしたちが行える善や人に与えられる影響力に、限りはありません。批判や否定的な言葉を心に留めず、強さと人を助ける能力と望みを求めて祈りましょう。福音の光を常にどこにあっても輝かし、贖^{あがな}い主の御霊^{みたま}がわたしたちから発せられるようにしましょう。主はヨシュアにこう言われました。『強く、また雄々しくあれ。あなたがどこへ行くにも、あなたの神、主が共におられるゆえ、恐れてはならない、おののいてはならない。』（ヨシュア1：9）（「さらに親切になる必要性』『リアホナ』2006年5月号, 61）■



知っていいよかった

フィリス・ガンダーソンが
コン・ネアン・セレイから聞いた話

19歳のとき、わたしはカンボジア中部の小さな村を出て、首都プノンペンに住む兄と同居することになりました。その数年前、兄は、白いワイシャツにネクタイと名札をつけた二人の青年に出会いました。その兄が、今度はわたしに福音を紹介し、バプテスマを施してくれました。

バプテスマを受けたとき、地方部会長のペン・ビボル会長がわたしに言いました。「信仰箇条を暗記してください。いつも覚えておくとよい、教会の長所が全部説明されていますから。」賢明な忠告だと思ったので、13条を全部暗記して、定期的に復習しました。だれかにキリスト教について尋ねられたら、自分の信仰について説明できるようになりたかったからです。でも、ビボル会長の助言がどれほど貴重なものになるか、当時のわたしには知るよしもありませんでした。

兄はわたしに、自分を磨き教育を受けるようにと、いつも励ましてくれました。バプテスマを受けてから数年後、わたしは英語の大学入学試験に合格して、プリガム・ヤング大学ハワイ校で4年間国際マーケティングを勉強する奨学金を受けることになりました。

入学試験はとても難しかったです。しかし、最大の難関はまだその先に待ち構えていました。それはアメリカのビザを取得することです。アメリカの入国許可をもらうのは難しく、費用がたくさんかかるのです。アメリカの大学から奨学金を得た人でもビザがもらえないことがありました。わたしは用紙に必要事項を書き込んで、アメリカ大使館の面接の約束を取りつけました。それから間もなく、わたしは青い目の若い面接官の前に机を挟んで座り、面接を受けました。

「アメリカには大学がたくさんあるのに、なぜBYUハワイ校へ行きたいんですか」と面接官は尋ねました。

「わたしは末日聖徒イエス・キリスト教会の会員で、BYU

ハワイ校が教会の大学だからです」と答えました。

面接官は書類をべらべらめくって言いました。「お兄さんがもうアメリカに行っているんですね。」わたしは大使館が一家族から同時に二人以上出国するのを好まないのを知っていました。

「そうです」と、わたしは正直に答えました。「兄はBYUハワイ校に行っています。」面接の雲行きは怪しくなってきました。

質問が続きました。「ご両親は仕送りができるのですか。」

「父は農夫ですし、母は物売りです。」両親の収入はごく限られていることを伝えました。

「では、アメリカで勉強する学費はどうするのですか」と面接官は尋ねました。

わたしは入学許可通知を取り出して、大学へ行く奨学金を受けることになっていると説明しました。

入学許可通知を見てから、面接官は机の引き出しに手を伸ばし、小さなカードを取り出して言いました。「信仰箇条の最初の4条暗唱してみてください。」

信仰箇条を自分の名前くらいよく知っていたわたしは、暗唱を始めました。「わたしたちは、永遠の父なる神と、その御子イエス・キリストと、聖霊とを信じる。」第3条まで暗唱し終わると、面接官はそこで止めました。

「けっこうです！」彼はそう言ってカードを机にしまいました。「明日ビザを取りに来てください。」

わたしは面接官がどうして信仰箇条のカードを机に入れていたのか分かりません。でも、暗唱するように言われたときに、必死に思い出す必要がなかったことに感謝しています。信仰箇条を覚えていればいつもこのような劇的な結果が得られるとは限りませんが、知っておくのが望ましいことになりました。■





スペンサー・W・キンボール

Spencer W. Kimball

行動の人

キンボール大管長は自分が教えることを実践する人だった。

「何を知っているかということは、
何を行っているか、そしてどのような人物であるかということに比べると
それほど大切ではありません。」

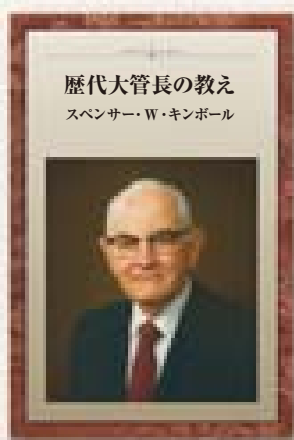
ギャレット・H・ガーフ

教科課程部

1981年、当時七十人第一委員会の会員だったロバート・D・ヘイルズ長老はスペンサー・W・キンボール大管長についてこう語りました。「大管長は、彼のデスクに置かれている『実行』という標語が示しているように、行動の人です。」¹

1973年12月から1985年11月まで教会の第12代大管長を務めたこの「行動の人」は、福音を実践することについて現状に満足することなく、さらに高い段階を目指すよう末日聖徒に奨励しました。「わたしたちは……歩幅を広げなければなりません」と大管長は語りました。² さらにこう勧告しています。「このことを心に留めてください。何を知っているかということは、何を行っているか、そしてどのような人物であるかということに比べるとそれほど大切ではありません。主の計画は単に知識を積み重ねるだけのプログラムではなく、それに従って行動し、生活するためのプログラムです。主の計画を知ることそれ自体が目的ではないのです。どれほど義にかなって生活し、その知識を自分の生活の中で応用し、ほかの人々を助けるためにそれをどのように応用するかによって、わたしたちの人格が測られるのです。」³

キンボール大管長は福音に従って生活する決意を、生涯貫き通しました。これによって、大管長の教えは靈感あふれる勧告であるとともに、実際的な教えとなり、わたしたち一人一人がいつそ福音に従って生活できるよう役立つものとなったのです。以下に挙げるそのような模範は、2007年のメルキ



ゼデク神権と扶助協会の教科課程として、英語点字を含む26か国語で出版された『歴代大管長の教え——スペンサー・W・キンボール』から抜粋したものです。

祈り

スペンサー・W・キンボールがその生涯で経験した最もつらかったことの一つは、彼が11歳のときに母を亡くしたことでした。当時のことを大管長はこのように思い起こしています。その知らせは「雷に打たれたような衝撃でした。涙が洪水のようにあふれてきました。

わたしは独りになるために家を出て裏庭へと走りました。だれにも見えない所、だれにも聞こえない所、だれもいない所で、わたしは激しく泣き続けました。……11歳のわたしの心は張り裂けるばかりでした。」

けれどもスペンサーはこのような幼い時期から、祈りによって慰めと平安がもたらされることを知っていました。この悲しみのときについて、家族ぐるみで付き合いのあったある友人は、このように記しました。「幼いスペンサーの祈りを聞いて、我が家の子供たちは〔妻とわたし〕とともに涙を流しました。母親の死は、彼の小さな心にどれほど重くのしかかっていたことでしょう。それでも彼は何と勇敢に悲しみと闘い、また唯一の源に慰めを求めていたことでしょう。」⁴

キンボール大管長は祈りについてこう教えました。「祈りは、天の御父に語りかけるだけでなく、御父から愛と靈感を受けることができる特権です。祈りを終えるに当たって、真剣に耳を傾ける必要があります。——数分間にわたって耳を傾け



上—
**キンボール大管長は
生涯を通じて
聖文の研究を愛した。**
下—**アンドリューと
オリブ・キンボールの
家族、1897年。**
**父のひざに
乗せられているのが
2歳のスペンサー。**
次ページ—
**カメラ・アイリング
(下の写真)と
結婚した頃の
スペンサー青年。**

る必要があることもあります。わたしたちは勧告と助けを求めて祈ってきました。今度は『静まって、〔御父〕こそ神で〔あられる〕ことを知らなければなりません(詩篇46:10)』。⁵

「祈りの言葉を学ぶことは、生涯をかけて行う喜びにあふれる経験です。時々、祈りの後で耳を傾けているときに、心に考えがあふれることがあります。強い気持ちを感じることもあります。穏やかな霊が、すべては大丈夫であるという確信を与えてくれます。けれども、正直であり、誠実であるならば、必ず^{こころよ}快さを感じます。天の御父に対する温かい気持ちと、わたしたちに対する御父の愛を感じるのです。その穏やかな、霊的な温かさの意味を学んでいない人がいることを、わたしは悲しく思っています。なぜなら、祈りに伴うこの穏やかで霊的な温かさは、祈りが聞かれていることを^{あかし}証するものだからです。天の御父はわたしたちのことを、わたしたちが自分自身を愛する以上に愛しておられます。それはわたしたちが御父の慈しみに頼ることができ、御父を頼ることができることを意味しているのです。もし続けて祈り、送るべき生活を送るならば、御父の手によって導かれ、祝福されることを意味しているのです」⁶

聖文の研究

スペンサー・キンボールが14歳のときに聞いた

たある説教の中で、話者は聖書を初めから終わりまで読んだことのある人がどれほどいるかと会衆に尋ねました。手を挙げた人は数人しかいませんでした。そのわずかな人数に加わることができなかったスペンサーはその聖なる書物を初めから終わりまで読む必要性を心に強く感じました。こうして、スペンサーは灯油ランプの明かりを頼りにその晩から聖書を読み始めました。そして、約1年かけて、聖書を通読するという目標を達成したのです。またそれは、生涯を通じて聖文の研究を愛することへと結びついた大きな出来事でした。⁷

キンボール大管長はしばしば聖文研究について教えました。「自分の聖文研究について正直に評価してみるよう皆さんにお願いします。よく知っていていつでも思い浮かぶ聖句が幾つかあり、そのために自分は福音について多くを知っていると錯覚することがよくあります。この意味で、少しばかりの知識を持っていることがかえって厄介なことがあります。わたしは、だれもが人生のいずれかの時点で、聖文の価値を自分で見いださなければならず、それも一度だけでなく、何度も繰り返し見いださなければならないと確信しています」⁸

「わたしは自分と神との関係が密接でなくなったと感じるとき、また神が耳を傾けず、声を発しておられないように感じる時、神から遠く



離れていることが分かります。そのようなとき、もし熱心に聖文を読むならば、その距離は縮まり、霊性が戻ってきます。心と力とを尽くして愛さなければならない人をさらに強く愛するようになります。そして聖文を愛すれば愛するほど、聖文の勧告に従うのが容易になります。』⁹

敬虔さ

教会のある集会所を訪問したとき、キンボール大管長はトイレの床にペーパータオルが落ちているのに気づきました。大管長は、ペーパータオルをゴミ箱に入れ、流しをきれいにしました。地元のある教会指導者は、キンボール大管長のこの心配りと教会の建物に敬意を払う模範に深く感銘を受けました。その指導者は後日、神聖な場所や物に対していっそうの敬虔さを示すよう人々に教えました。¹⁰

キンボール大管長はこう教えました。

「集会の前後に、教会員が礼拝堂で群がってあいさつを交わしている光景をよく見かけます。こうした敬虔さを欠いているように見える行為について、悪気のない人たちは、『教会員は社交的だから』とか、『安息日はあいさつをしたり、フェロシップをしたり、初対面の人と話したりするのに都合がよいから』という理由をつけています。親は、集会の前か後に玄関やそのほかの礼拝堂以外の場所であいさつをして、家族に模範を示すべきです。集会から戻ったら、親は集会での話や音楽、そのほかの良かった点について家庭で子供と話し合うことによって、集会の霊的な雰囲気や家庭に持ち込むことができます。』¹¹

「敬虔さとは日曜日に見せる一時的な堅苦しい振る舞いではないことを覚えておかなければなりません。まことの敬虔さは、愛、敬意、感謝、神を畏れ敬う心、そして、幸福と密接に関係しています。敬虔さはわたしたちの生き方の一部となるべき徳です。実際、末日聖徒は地上で最も敬虔な民でなければなりません。』¹²

救い主に対する献身

1943年に使徒に召されたスペンサー・W・キンボール長老は1940年代後半、何度か心臓発作に襲われました。キンボール長老はその後の療養期間をニューメキシコの友人宅で過ごしました。教会機関誌は後に、その間に起きた出来事を次のように紹介しています。

「静養中のある日の朝、キンボール長老のベッドが空になっているのが見つかりました。きっと朝の散歩に行っていて、朝食の時間には戻って来るだろうと思い、付き添いの人々はそれぞれの仕事に取りかかりました。しかし午前10時になっても戻って来なかったため、心配になり、探し始めました。

そしてようやく、数キロ離れた所にある松の木の下で、キンボール長老が見つかりました。わきには聖書があって、ヨハネによる福音書の最後の章が開いてありました。探しに来た人々がすぐそばまで近づいても、両目を閉じたままじっとしていました。

しかし周囲の驚き慌てた声に目を開いたキンボール長老の頬には、涙の跡が残っていました。

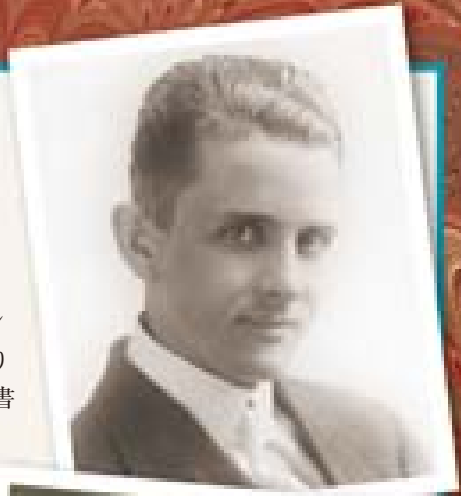
問いかけに答え、キンボール長老はこう言いました。『〔5〕年前の今日、わたしは主イエス・キリストの使徒に召されました。ですから今日は、自分が証する御方である主とともに一日を過ごしたかったのです。』¹³

キンボール大管長は救い主について教えるとき、キリストの特別の証人として証を述べました。

「ああ、わたしは主イエス・キリストを愛しています。わたしの心からの思いと愛情を主に示し、表すことができるよう願っています。わたしは主の近くで生活したいと思います。主に似た者になりたいと思います。そして主がわたしたち全員を助けてくださって、主がニーファイ人の弟子たちに言われたような人物になれるように祈っています。主は『したがって、あなたがたはどのような人物であるべきか』と尋ね、自ら次のように答えられたのです。『わたしのようであなければならない。』(3ニーファイ27:27)』¹⁴

「主イエス・キリストの大いなる犠牲と、主がわたしたちのために堪え忍ばれた苦しみについて考えるとき、もしそのことを自分の力の及ぶかぎり正しく認識していないとしたら、わたしたちは恩知らずということになるでしょう。主はわたしたちのために苦しみと死を受けられました。けれども、もしわたしたちが悔い改めないとしたら、主がわたしたちのために受けられた苦悶と苦痛はすべてむなしいものになってしまうのです。』¹⁵

「ゲツセマネとカルバリでナザレのイエスに実際に起こっ



たことを理解すればするほど、自分たちの生活における犠牲と無私の精神の大切さが分かるようになるでしょう。』¹⁶

人に奉仕する

2歳の娘を連れて一人の若い母親が、悪天候のために空港で足止めを食っていました。帰路の飛行機に乗るために、長い列に加わって何時間も待っていたのです。娘は疲れて、むずかっていました。けれども母親は妊娠していて、流産の恐れがあったため、娘を抱きかかえることができませんでした。よほどのことがないかぎり子供を抱きかかえてはならないと医師に指示されていたのです。周りの乗客の間から、列が前に進む度に床に座り込んで泣いている子供を足で押す彼女を非難する声が聞こえてきました。助けの手を差し伸べる人は一人もいませんでした。彼女は後に次のように語っています。「[そのとき、]一人の方がこちらにやって来て、優しくほほえみながら、『何かお助けできることはありませんか』とおっしゃったのです。わたしはその言葉にほんとうにほっとして、ぜひお願いします、と申しました。その方は、冷たい床に座って泣いていた幼い娘を抱き上げ、背中を優しくたたいてくださいました。この子はチューイングガムをかめますか、とお尋ねになりました。娘がおとなしくなると、その方は娘を抱いたまま前列に進み、わたしがどんなに困っているかを乗客の方々に穏やかに説明している様子でした。皆がその言葉に納得したようでした。その方は[列の前にあった]搭乗受付カウンターまで進み、航空会社の職員に交渉して、間もなく離陸する飛行機の搭乗券を手に入れてくださいました。

そしてわたしたちとともにベンチに行き、わたしが

気を取り直すまで、少しの間話し相手になってくださいました。そしてその場を去って行かれたのです。それから1週間ほどして、わたしはスペンサー・W・キンボール使徒の写真を目にし、空港でのあの見知らぬ方だったことに気づきました。』¹⁷

人に奉仕するキンボール大管長の多くの模範には、自らが教えた次の

ような原則を実践しようという決意が表れています。

「神はわたしたちを心に留め、見守っておられます。しかし、神は普通、だれかほかの人を通してわたしたちの必要を満たされます。ですから、王国で互いに仕え合うことがきわめて大切なのです。教会の人々は、弟子たちの集まりである信者の社会の中で、互いの強さと支え、指導力が必要です。教義と聖約の中には、『弱い者を助け、垂れている手を上げ、弱くなったひざを強め〔る〕』ことがどれほど大切であるかが述べられています(教義と聖約81:5)。わたしたちに奉仕の行いとして求められているのは、誠意を込めた励ましや、日常の仕事の簡単な手伝いであることがほとんどです。しかし、簡単な行いから、そして小さいながらも思慮深い行いから、どれほどすばらしい結果が引き出されることでしょうか。』¹⁸

「人に奉仕することによって、今の生活を充実した美しいものとすると同時に、より良い世界で生活する備えをすることができます。仕えることによって、仕える方法を学ぶのです。同胞に仕えるとき、その行為によって彼らを手助けだけでなく、自分自身の問題を新しい観点から眺めるようになります。人に関心を向けるようになるとき、自分のことを気にする時間が少なくなります。仕えるという奇跡の中にこそ、自分を失うことによって自分を得る、すなわち自分自身を見いだすというイエスの約束があるのです[マタイ10:39参照]。

自分の生活の中に神の導きを認めることによって、自分自身を『見いだす』こととなります。しかしそれだけではありません。適切な方法で同胞に仕えれば仕えるほど、人は豊かになります。人に仕えるとき、わたしたちは存在意義を増すこととなります。人に仕えるとき、いっそう価値のある人物になります。——自分の中に見いだすものが多いので、実際に自分自身を『見いだす』のが容易になるのです。』¹⁹

福音を分かち合う

エクアドルのキトを訪問中、十二使徒定員会のスペンサー・W・キンボール長老は、4人の若い宣教師を含む一行とともにホテルのレストランで食事をとることにしました。キンボール長老はパンとミルクを注文すると、ウェイターに子供がいるかどうかを尋ねました。ウェイターは息子が一人いると答えました。するとキンボール長老は言いました。「息子さんの健康にはパンと牛乳がいいですよ。でも、もしここにいる若者たちが用意している食物を食べさせてあげれば、お子さんはもっと健康になりますよ。」ウェイターはその言葉の意味を理解しかねて戸惑っている様子でした。それからキンボール長老は、その若者たちがイエス・キリストの福音を教える宣教師であることを説明しました。ウェイターは宣教師から教えるを聞くことに興味がわいてきたと言いました。²⁰





左——1979年に
 テディー・
 ケレク市長から
 エルサレム市名誉章を
 贈られた
 キンボール大管長。
 下——
 日本札幌伝道本部で、
 キャロル・コイズミと
 ともに。
 左ページ、上——
 十二使徒定員委員会を
 務めていた
 当時のスペンサー・
 W・キンボール長老
 (着席左)、
 ジョージ・アルバート・
 スミス大管長(中央)と
 ナバホ族評議会の委員。
 下——
 フロリダ州の教会
 デゼルト牧場に於て、
 キンボール大管長
 (左から二人目)と
 夫人(右から二人目)。

伝道活動に関して、キンボール大管長はまさに行動の人でした。キンボール大管長はこのように述べています。

「主は非常に自然な方法で、わたしたちの友人や知人の輪の中に、御自分の教会に入る備えのできている人を大勢置いておられます。わたしはそう感じます。そのような人々を祈りをもって見だし、次に彼らに福音を紹介できるように主に助けを求めてください。」²¹

「伝道活動を行うこと、友人を宣教師に紹介すること、宣教師が福音を教える場に同席することは、霊的な冒険です。それは胸の躍る経験であり、報いのあるものです。その時間も、努力も、あれこれ思い巡らすことも、悔い改めと信仰とバプテスマを受けたいという望みを言い表す人が一人でもいたら、そうしたすべてが価値のあるものとなるのです。」²²

「兄弟姉妹の皆さん、わたしたちは自分にできるすべてのことを行っているでしょうか。人々に福音を教えるという務めについて、現状に満足してはいないでしょうか。歩幅を広げる準備はできているでしょうか。ビジョンを広げる準備はできているでしょうか。」²³

家族の愛と霊性

キンボール大管長は親としての愛情にあふれた人でした。息子のエドワードはこう語って

います。「父は常に愛情にあふれていました。わたしは父が自分を愛してくれていることを知っていました。」エドワードは、ソルトレーク神殿で聖会に出席したときの経験を次のように振り返っています。「そこには何千人もの人々がいました。集会が終わったとき、〔父は〕聖歌隊で歌っていたわたしを見つけました。父は退出する際に、やって来てわたしを抱き締め、キスをしてくれました。」²⁴

キンボール大管長は心の底からの証を述べながら、このように教えました。

「子供たちがどれほど大きくなっているかにかかわらず、彼らを腕に抱き、愛していることや、永遠にともにいられることをうれしく思うと最後に伝えたのはいつでしょうか?」²⁵

「神はわたしたちの御父です。わたしたちを愛しておられます。多くの力を費やしてわたしたちを訓練しようとしてくださいます。わたしたちは神の模範に従って、自分の子供たちを真剣に愛し、義のうちに育てなければなりません。」²⁶

「真の末日聖徒の家庭は、人生の嵐や苦闘からの避け所です。日々の祈り、聖文研究、家庭での福音についての話し合いやそれに関連した活動、家庭の夕べ、家族会議、ともに働くこと、遊ぶこと、互いに仕え合うこと、および周囲の人々に福音を分かち合うことによって、霊性が生まれ、養われていきます。また霊性は、互い





上——
キンボール大管長夫妻。
下——
キンボール大管長、
当時十二使徒定員会
会長を務めていた
エズラ・タフト・
ベンソン(上の写真)と
当時大管長会の顧問を
務めていた
ゴードン・B・
ヒンクレー(下の写真)。
右——5人の孫たちと
ともに1974年の
クリスマスを祝う
キンボール家族。

に対する忍耐、優しさ、赦しの
行いによって、そして家族の中
で福音の原則を実践することに
よって養われていきます。家庭
は、ともに福音の真理を学び、
それに従って生活しながら、わ
たしたちが福音の義に関する
専門家となり学者となる場所な
のです。』²⁷



【行わなければならないすべてのこと】

キンボール大管長の生涯と教えは、福音の
知識を行動に移す必要があることをわたした
ちに伝えています。世界中の教会員に愛され
ている初等協会の歌「神の子です」に、わずか
ではあるものの深遠な変更が行われたという
出来事からも、キンボール大管長が実行の大切
さを強調していたことが分かります。1957年に
作られたこの曲(英語版)は、当初、折り返し部
分の最後は「いつかみもとで生活するために、
知っておかなければならないことをすべて教
えてください」となっていました。しばらくして、
当時十二使徒定員会の会員を務めていたスペ
ンサー・W・キンボール長老はその最後の部
分の一語を変更するよう提案しました。そして、
現在では「いつかみもとで生活するために、行わ
なければならないことをすべて教えてください」
となっています。²⁸

この歌詞はキンボール大管長
の生涯と教えを美しく簡潔に表
現しています。キンボール大管
長は言葉と模範によって、いつか
天の御父のもとで生活するた
めにわたしたちが行わなければ
ならないことを教えました。その
ように、行わなければならない
ことをすべて行って、福音に従
う道を歩むならば、キンボール
大管長が語った次の預言を含ん
だ約束にあずかることができます。「純粹で簡潔なイエス・
キリストの福音に従って生活
する人には、幸福の宝庫の扉
が開かれています。……イエ

ス・キリストの福音に完全に
従った生活を送るように計画し、
自分が定めた進路を忠実に歩
み続ける人こそが、至高の幸
福を確信し、現世での繁栄と、
来世での昇栄と永遠の命を確
かなものにすることができる
のです。』²⁹ ■

注

- 『歴代大管長の教え：スペンサー・W・キンボール』(2006), xxxiv - xxxv で引用。
- 『歴代大管長の教え』262
- “Seek Learning, Even by Study and Also by Faith,” *Ensign*, 1983年9月号, 6
- 『歴代大管長の教え』11 - 13参照。エドワード・L・キンボール, アンドリュー・E・キンボール・ジュニア共著, Spencer W. Kimball (1977年), 46も参照。
- 『歴代大管長の教え』53
- 『歴代大管長の教え』56 - 57
- 『歴代大管長の教え』59 - 60参照
- 『歴代大管長の教え』62
- 『歴代大管長の教え』66 - 67
- 『歴代大管長の教え』155
- 『歴代大管長の教え』162 - 163
- 『歴代大管長の教え』156
- 『歴代大管長の教え』23参照
- 『歴代大管長の教え』31
- 『歴代大管長の教え』29
- 『歴代大管長の教え』81
- 『歴代大管長の教え』79 - 80参照
- 『歴代大管長の教え』82
- 『歴代大管長の教え』85 - 86
- 『歴代大管長の教え』258参照
- 『歴代大管長の教え』262
- 『歴代大管長の教え』259
- 『歴代大管長の教え』261
- 『歴代大管長の教え』203参照
- 『歴代大管長の教え』212
- 『歴代大管長の教え』212
- 『歴代大管長の教え』210
- 『歴代大管長の教え』1参照
- 『歴代大管長の教え』7



誘惑に打ち勝つ

確実に誘惑に打ち勝つ方法は、まず誘惑そのものを避けることです。十二使徒定員会会長代理のポイド・K・パッカー会長は、アフリカの野生動物公園を訪れたときに、ほんの小さな水たまりであつても近づかないように忠告されたと語っています。水がある所は、たとえ象の足跡にたまつた水たまりでさえも、近くにわにが潜んでいる可能性があるからです。〔「霊の『わに』』『リアホナ』2002年10月、8参照〕

そのような危険な「水たまり」を避けるには、以下のアイデアが役に立つでしょう。

- 誘惑があるかもしれないと分かっている場所や状況を避けます。もしそうしなければ、ダイエット中にパン屋で時間をつぶすようなものです。
- 標準の異なる人や、自分の標準を尊重しない人に気をつけます。友情を示し、自分が参加する健全な活動にそうした人たちを招くのはかまいませんが、彼らの領域に足を踏み入れるのは避けます。
- 時間に気をつけます。遅くなつて疲れてくると、抵抗力が弱まります。

誘惑を避けるだけでなく、自分に害が及ばないように積極的に行動することもできます。

- 映画、テレビ、ゲーム、音楽などの娯楽は、「若人の強さのために」に示されている標準に合うものを選びます。

- 自分にとって望ましい場所と活動を選び、高い標準を持った人と時間を過ごします。
- 毎日祈りと聖文研究を行い、毎週教会に出席して、霊性を維持します。
- 記憶力を活用します。パプテスマの聖約を覚えていてください。聖餐を取るためにふさわしくありたいと自分で願っていることを忘れないでください。主が自分のためにくださった事柄と救い主御自身とを心に留めていてください。
- 好きな賛美歌の歌詞を暗記します。嫌な思いが浮かんできたら、その賛美歌を歌ったり、それについて考えたりします。あるいは、信仰箇条やマスター聖句を頭の中で暗唱してみます。

「神は真実である。あなたがたを耐えられないような試練しれんに合わせることはないばかりか、試練と同時に、それに耐えられるように、のがれる道も備えて下さるのである。」(1コリント10:13) ■



家族が永遠にいられることを 知っています

モイセス・ネフィ・モラレス・ゴンザレス

あの日のことはまだ覚えています。イエス・キリストの福音がなかったら、その日は人生最悪の日になっていたかもしれません。2001年7月12日、この日に母は亡くなりました。母は日曜の夜に具合が悪くなり、木曜の朝には帰らぬ人になってしまいました。わたしは16歳でした。その日は試験が重なっていましたが学校を休み、家族といっしょに母の葬儀に出席しました。

葬儀が終わって帰ったときには、精神的に完全に打ちのめされていました。心にたとえようもないくらい大きな穴がぽっかりと開き、その傷が癒えることは二度とないだろうと思いました。

ベッドに横になって泣きじゃくりながらも、自分自身にこの思いを投げかけました。「お母さんはどうしてこんなに早く、死ななければならなかったのだろうか。どうしてぼくを置いていってしまったのだろうか」と。

わたしは10歳の弟といっしょに教会の静かな賛美歌を聴くことにしました。すると、寂しくて悲しい、癒されない思いが消えて、温かな感じに包まれました。大きな平安を感じ、穏やかな気持ちになりました。空虚な思いは消え、悲しみを顔や声の調子に出すことがなくなったのです。

家族と教会へ戻ったときにも、この御霊の慰めをまだ感じていました。教会には親類の人が集まって、母の死を嘆いていました。親戚は皆とても悲し

そうで、中には悲痛な泣き声を上げる人もいます。だれの顔にも深い苦しみが表れていました。ところが、わたしたち家族は親戚の人たちほど深く悲しんでいるようには見えなかったのでしょう。皆はその理由をいぶかるように、妙な目つきでわたしたちを見詰めました。でも、わたしの心臓は穏やかな音をたて、全身は平安で満たされていました。わたしには、慰め主である聖霊がわたしたちの心の痛みを和らげてくださっていることが分かりました。また聖霊は、イエス・キリストと天の御父が生きておられ、この教会が永遠の聖約を擁する真実の教会であることを証してくださっていました。

後になって、わたしは日記に次のように書いています。「母は、わたしたちがあまり泣き悲しむことを望んではいない。悲しいことは悲しいけれど、心には大きな平安がある。強くなって善い生活を送り、母にまた会えるようにならなければならない。わたしの信仰と証は強くなった。専任宣教師として神と同胞に仕えたいという望みもだ。母はこれからもずっとそばにいて、わたしが正しい道にとどまれるよう

に助けてくれる。わたしは家族が永遠に一緒にいられることを知っている。15年前、家族がペルー・リマ神殿で結び固められて永遠の家族になったのは、今日みたいな日だった。これがわたしの慰めになっている。」

わたしたち家族はその後も様々な困難を経験してきました。けれども、証が揺らぐ度に、聖霊によって慰めと、福音の永遠の真理についての証が与えられたときのことを思い出します。■



特別な 指導者

サリア・デ・バロス・フェレイラ・
ダ・シルバ

人の指導者のおかげでわたしの生活が良い方向に変わったことを、いつまでも感謝し、忘れないでしょう。その指導者に初めて会ったころ、わたしにはあまり友人がいませんでした。口数が少なく、人にほほえみかけることもありませんでした。セミナーやほかの活動にも参加していませんでした。ほんとうのところ、教会は日曜日しか行っていなかったのです。そのうえ若い女性のクラスでも、身を入れてレッスンを聞いていませんでした。何人かの女の子が仲間に入れてくれようとしたのですが、わたしは友達になろうとはしませんでした。

最初、この指導者の姉妹は親しくなろうとしてくれましたが、わたしはなじもうとはしませんでした。

そのころは、この姉妹の名前も知らなかったのです。それから、責任を受け、この姉妹から当てにされるようになりました。責任を受け入れた理由はたった一つ、断り方が分からなかったからです。やがて気がつくと、彼女と仲良くなっていました。わたしは責任を果たすためにますます努力し、レッスンにも耳を傾けるようになりました。セミナーなど、教会の活動にも出席し、さらには、ワードの青少年とも仲良くなりました。そのうちに、福音はわたしの生活の中でいちばん大切なものになっていました。

わたしの生活がこれほど変わるきっかけを作ってくれたのは、だれでしょうか。あの指導者の姉妹です。今では、彼女の目を見ると、わたしは限りな

い愛と感謝の思いで満たされます。このような特別な指導者を与えてくださったことを天の御父に感謝しています。彼女は、わたしが神殿でエンダウメントを受けられるように備えをしてくれ、ブラジル・サンパウロ神殿でエンダウメントを受けた日には、一緒にいてくれました。彼女がしてくれたことに、また、彼女の愛の模範に感謝しています。わたしは彼女のような愛を生活の中で実践できるように努力しています。

現在わたしはワードの若い女性の指導者として、彼女がしてくれたことをほんの少しでも、自分が教える若い女性に対して行うことができたらと思っています。■



ともに教化されて、

ともに喜ぶ



A・ロジャー・メリル

中央日曜学校会長

次の質問とそれに対して聖文がどのように答えているかについてよく考えてください。

なぜガデアントンの強盗団は滅びたのでしょうか？

「そしてレーマン人は、ガデアントンの強盗団を捜し、強盗団の中のひとときわ悪い者たちの中で神の言葉を宣べ伝えたので、この強盗団はレーマン人の中から完全に絶えてしまった。」(ヒラマン6：37)

敵対する者の誘惑や火の矢からわたしたちを守ってくれるものとは何でしょうか？

「だれでも神の言葉に聞き従って、それにしっかりつかまる者は、決して滅び

ることがなく、また敵対する者の誘惑や火の矢も、彼らを打ち破って盲目とし、滅びに至らせることはない……。」(1ニーファイ15：24)

死や戦争の脅威よりも人の心に強く影響するものとは何でしょうか？

「ところで、御言葉を説き教えることは民に正しいことを行わせるのに大きな効果があり、まことにそれは、剣やそのほか、これまで民に起こったどのようなことよりも民の

御^みたま^{たま}霊^{たま}によって受け、
教える方法を
身に付けると、
試練を克服するときに、
神の御言葉^{みことば}の力から
助けが得られる
ようになります。



心に力強い影響を及ぼしたので、アルマはこの度も神の言葉の力を使うのが望ましいと思った。」(アルマ31:5)

わたしたちをともに喜ばせるものは何でしょうか？

「それゆえ、説く者と受ける者が互いに理解し合い、両者ともに教化されて、ともに喜ぶのである。」(教義と聖約50:22)

興味深いことに、以上の質問に対する答えは全部同じです。答えは神の御言葉の力です。神の御言葉の力こそ、子供たちを守る力となり、個人の生活、家族、社会にあって、この末日の大いなる試練を克服する力となるのです。

では、神の御言葉の力がもたらす祝福を実際に手に入れるにはどうすればよいのでしょうか。当然ながら、個人学習が土台となります。しかし、さらに大いなる力を受けるには、御言葉を御霊によって教え、受けるようになる必要があります。これこそが「ともに教化されて、ともに喜ぶ」方法なのです。

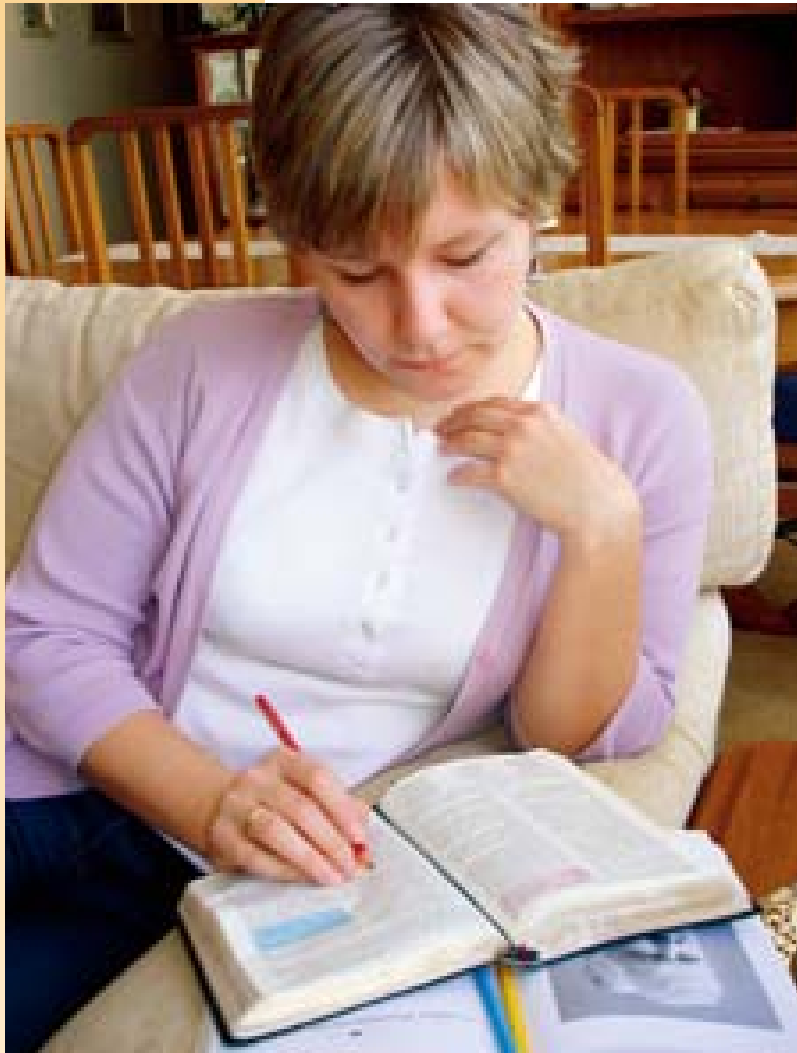
御霊により受ける

福音において、教師の役割に十分焦点を当てることは適切ですが、その一方で、わたしたち自身の学習者としての役割についても注意を向ける必要があります。

数年前のある日曜日のことです。当時地域七十人として奉仕していたわたしは、地元の伝道部会長とともに遠方を訪問し、幾つかの集会を管理しました。それぞれ違う人々が出席します。最後の集会を開くころには、わたしたちは二人とも疲れていました。既に300マイル(480キロ)以上車を走らせていましたし、何度も説教していたからです。わたしたちは、最後の集会を始めました。ほかの集会で話した同じ内容を、同じ順番で話し始めました。

しかし、話していくうちに、素晴らしいことが起こったのです。御霊が強く感じられ、教える者も学ぶ者も、集会の間中ずっと高められ続けたのです。わたしたちは、集会の後で互





福音の学習を おろそかに しながら、

生活の中で
御言葉の力を
受けられると
期待することは
できません。

いにこう言いました。「すばらしかったですね。
今日いちばんの集会でしたね！」

なぜそのような違いが生じたのでしょうか。わたしたちが変わったわけではありません。わたしたちが突然、立派で、雄弁で、霊的な者になったのではないのです。それまでの集会と違うところがあるとすれば、一日中集会をして多少疲れていたぐらいのことです。扱ったテーマも、ほかの集会と同じものでした。

このことについて伝道部会長と話しているうちに、あの最後の集会に出席した人々は他のグループよりも謙遜で、霊的によく準備していたことに気づきました。その結果、彼らの心は御言葉に対して開かれ、御言葉を渴望していました。それで主は、彼らの生活を祝福するために、仲立ちであるわたしたちをより効果的にお使いになることができたのです。その集会が成功したのは、わたしたちよりも、彼らの

おかげでした。

それ以来、わたしはこの原則が当てはまる場面を数多く見てきました。主が現世の務めをしておられた時代には、主御自身以上に印象的に教えられた人はいませんでした。マタイによる福音書にこうあります。救い主が「郷里に行き、……彼らの不信仰のゆえに、そこでは力あるわざを、あまりなさらなかった。」(マタイ13:54, 58) モロナイがこう宣言しているのが聞こえてきそうです。「わたしはあなたがたに、神の力を否定しないようにと勧めたい。神は今日も、明日も、とこしえに同じ御方で、人の子らの信仰に応じて力をもって働かれる。」(モロナイ10:7, 強調付加)

さてわたしは皆さんにお勧めします。日曜日にクラスや聖餐会せいさんに出席するときに、皆さんには霊的なすばらしい経験をやる能力があるという見地から、この原則が意味することについて考えてください。「知る必要があることを御霊から教わるための環境を作る」という点で、皆さんにはどのような役割があるのでしょうか。もし教会のクラスや聖餐会がつまらないと感じたら、その原因は教師にあるのでしょうか。それとも皆さんの方でしょうか。

あるとき、スペンサー・W・キンボール大管長(1895-1985年)は、「つまらない聖餐会だと思ったらどうしますか」と尋ねられました。キンボール大管長は、一瞬考えてから、こう答えました。「分かりません、そのような会に出たことがありませんので。」¹ 大管長のこの返答についてよく考えてください。キンボール大管長がその長い教会員生活において出席した集会の中には、用意した原稿を読む人、単調に話す人、教義を教える代わりに旅行談をする人が大勢いたことでしょう。ですから、おそらくキンボール大管長は、聖餐会に行くのは楽しみを得るためでなく、主を礼拝し、聖約を新たにし、高い所から教えを受けるためであるということを知っていたのです。その人が心を開いて出席し、「神の善い言葉で養われたい」と望み(モロナイ6:4)、話者を裁く代わりに、話者のために祈っていたならば、さらに効果的で忠実な弟子となるためにすべきことを御霊から

教えられていたでしょう。そのとき、キンボール大管長は、御霊によって学ぶという原則を教えていたのです。

教義と聖約の中で、主はわたしたちに、御霊によって教えることと学ぶことの両方について教えておられます。

「まことに、わたしはあなたがたに言う。わたしから聖任され、慰め主すなわち真理の御霊によって真理の言葉を宣べ伝えるために遣わされる者は、真理の御霊によってそれを宣べ伝えるか、それとも何かほかの方法によって宣べ伝えるか。

もしもそれが何かほかの方法によるとすれば、それは神から出てはいない。

さらにまた、真理の言葉を受け入れる者は、真理の御霊によってそれを受け入れるか、それとも何かほかの方法によって受け入れるか。

もしもそれが何かほかの方法によるとすれば、それは神から出てはいない。

それゆえ、真理の御霊によって御言葉を受ける者は、真理の御霊によって宣べられるままにそれを受けるということを、あなたがたが理解して知ることができないのはなぜか。

それゆえ、説く者と受ける者が互いに理解し合い、両者ともに教化されて、ともに喜ぶのである。」(教義と聖約 50：17 - 22)

もしわたしたちが御霊以外の方法で教えたり、受けたりするなら、それは神から出てはいない、と主が言われていることに注目してください。わたしたちのあらゆる思い、あらゆる感情、あらゆる必要を知っておられるのは御霊だけです。御霊だけが、神の完全な知恵に基づき、わたしたちが知る必要のあることを、一人一人に対して、明確にまた個人的に知らせることがおできになるのです。

学ぶ者として、わたしたちは、いつも楽しませてもらい、感情を刺激され、自分で考える前にすべての答えを受けることを期待すべきではありません。わたしたちは積極的に、また祈りをもって自らを備え、御霊からの具体的な靈感を求めて、自分の生活の中にあるそれぞれの試練に立ち向かう助けを



**キンボール大管長は、
「つまらない聖餐会だと
思ったらどうしますか」と
尋ねられたとき、
こう答えました。
「分かりません、
そのような会に
出たことはありませんので。」**

得るべきです。クラスの教師がインスティテュートで20年教えてきたベテラン教師であろうと、初めてクラスを教える改宗したての配管工の兄弟であろうと、わたしたちの学びの質にほとんど差はないはずです。ペテロは漁師でした。ジョセフ・スミスは小学校3年生以上の教育は受けませんでした。しかし御霊は、ペテロやジョセフを通して「〔聴く〕耳」のある者(マタイ 11：15)たちに力強く語られたのです。

捜し、求める

では、御霊によって受けるには、どのようにすればよいのでしょうか。わたしは二つの提案をします。学ぶ責任を受け入れることと、真摯な質問を胸に抱くことです。

第1の提案は、アルマからです。「もしあなたがたが目覚まし、能力を尽くしてわたしの言葉を試し、ごくわずかな信仰でも働かせようとするならば、たとえ信じようとする望みを持つだけでもよい。わたしの言葉の一部分でも受け入れることができるほどの信仰になるまで、その望みを育ててゆけ。」(アルマ 32：27)

福音の学習をおろそかにしながら、生活の中で御言葉の力を受けられると期待することはできません。「目を覚まし、〔わたしたちの〕能力を尽く」さなければならぬのです。「〔主の〕言葉を試」さなければなりません。信仰を働かせる必要があります。信じようとする望みを持たなければなりません。「その望みを育て」、そして「〔主の〕言葉の一部分でも受け入れ」ることが必要なのです。よろしいでしょうか。アルマは、日曜日にくらりと現れて、教師に楽しませてもらおうとする態度について解き明かしているものではありません。アルマが教えているのは、生活の中に御言葉の力を受けたければ、自分で学ぶという責任を受け入れて、信仰によって努力しなければならない、ということなのです。

第2の提案は新約聖書のヤコブの手紙からです。ジョセフ・スミスが聖なる森に入るようにとの靈感を受けたあの神聖な言葉です。

「あなたがたのうち、知恵に不足している者があれば、その人は、とがめもせず惜しみなくすべての人に与える神に、願い求めるがよい。そうすれば、与えられるであろう。

ただ、疑わないで、信仰をもって願い求めなさい。疑う人は、風の吹くままに揺れ動く海の波に似ている。」(ヤコブの手紙 1：5 - 6)

主はわたしたちに、求める、捜す、門をたたくということをしを繰り返して教えられ、そうするならば、得る、見いだす、啓示の扉が開くという神聖な約束をしておられます。真摯な疑問を心に抱くことは、わたしたちの生活に御霊の導きを招くため

に主によって定められた原則です。ヤコブの言葉を読んだとき、ジョセフの心を占めていたたくさんの問いについて深く考えてみてください。

「この言葉の争いと見解の騒動の渦のただ中であって、わたしはしばしば心に問うた。『何をしなければならぬのだろうか。これらすべての教派のうちのどれが正しいのだろうか。それとも、ことごとく間違っているのだろうか。もし彼らのうちのどれかが正しいとすれば、それはどれで、どうすればそれが分かるのだろうか。』」(ジョセフ・スミス-歴史1:10)

ヤコブの言葉は「〔ジョセフの〕心に力強く」迫って来ました。(ジョセフ・スミス-歴史1:12) それは、ジョセフの心に疑問が渦巻いていたからです。

では、どのような疑問が適切なのでしょうか。これから日曜学校のレッスンに出席して、ヤコブの手紙のこの聖句について学ぶとしたらどうでしょう。クラスの予習をするときに、またはクラスの間この聖句について考えるときに、次のような問いについて思いを巡らすかもしれません。

- ヤコブはどのような人だったのだろうか。この節が導き出された当時、どのような問題や状況があったのだろうか。
- 知恵とは何だろう。
- 「信仰をもって願い求める」とは、どのような意味だろう。
- 自分が理解していないことについて、「疑わないで」願い求めることは可能だろうか。「疑う」とは、どのような意味だろう。わたしは、どのようなときに、どのような理由で、疑うだろうか。絶対に疑わないでいるためには、どのような選択をすればよいだろう。
- わたしはどのような状況で風の吹くままに揺れ動く海の波」のようだと感じてきただろうか。そのような経験から、信仰をもって願い求めるにはどうすればよいか見いだしただろうか。
- この聖句の中で教えられている教義や原則は何だろう。そのような原則を教えているほかの聖句は、聖文のどこにあるだろうか。
- このような原則は、救い主の生涯と使命とどのような関係があるだろう。この聖句は、わたしが主に近づけるように、どのように助けてくれるだろうか。
- このような原則は、わたし自身やわたしの愛する人々が、それぞれの試練や機会に対処するときに、どのような助けになるだろうか。

生活の中で自分の分を果たし、つまり、靈感された問いを心に抱き、熱心に導きを求めるなら、わたしたちは御霊を招き、御言葉の力を通して教えを受けることができます。

御霊により教える

主は、御霊によって受けるのと同じように、わたしたちは御霊によって教えるべきであるとおっしゃいました。これはどういう意味なのでしょう。

もしかしたら、皆さんは今までに、このような人を見かけたこと(あるいは自分自身がそうだったこと)があるかもしれません。クラスを教えるために教室に向かいながら、手引きをちらっと見て、こう言うのです。「しかたない。準備する時間がなかったから、御霊によって教えるしかない。」また、もしかしたら、手の込んだ配付資料や多くの視覚教材、それに「御霊によって教える」ために言うべきセリフを一言一句書きこんだ台本を作りながら、一つのレッスンの準備のために何週間もかける人を見かけたこと(あるいは自分自身がそうだったこと)があるかもしれません。

これらは、どちらも主が望んでおられる方法ではありません。

教会における教授の標準は、聖文の中で定められ、手引き『わたしの福音を宣べ伝えなさい』にも明示されています。わたしたちは「まず〔主の〕言葉を得るように努め〔る〕」べきであると指導されています(教義と聖約11:21)。つまり、勉強する、真摯な疑問を心に抱く、その答えを求める、レッスンの概要を組み立てるというステップを踏んで、完全な準備をします。そのうえで、実際に教える際には、何を話し、行うかについて、御霊の導きに完全に従うようにと指導されています。

最近の世界指導者訓練放送において、ゴードン・B・ヒンクレー大管長は教義と聖約から次の聖句を引用しました。

「また、あなたがたは何を言おうかと、前もって思い煩ってはならない。ただ絶えず命の言葉をあなたがたの心の中に大切に蓄えるようにしなさい。そうすれば、それぞれの者に必要な部分が、必要なそのときに授けられるであろう。」(教義と聖約84:85)

大管長はそれからこう述べました。「これは主の勧告です。これを怠ればそれなりの結果を被ります。」²

わたしたちは「絶えず命の言葉を〔わたしたちの〕心の中に大切に蓄える」必要があります。つまり、読み、研究し、主に尋ね、備えるのです。そして、御霊によって「それぞれの者に必要な部分が、必要なそのときに授けられる」という約束を信頼するのです。これは、クラスで教えるときにも、聖餐会やステーキ大会で話すときにも当てはまります。しかし重要な違いが一つあります。教師が教室の中で説教をすることはめったにありませんし、聖餐会や、ステーキ大会や地方部大会の日曜日の部会の話者が話し合いを導くこともありません。

教室において御霊によって教えるとは、基本的には御霊がとどまる環境を作り、靈感された質問をすることによって、



「王国の教義を教え合[う]」ことができるようにすることなのです(教義と聖約88:77)。

十二使徒定員会のリチャード・G・スコット長老は、教室でレッスンを教えることについてこう述べています。「生徒にまったく参加させない説教調のレッスンを、決して、決してしないでください。『話だけで終わる』授業ほど役に立たないものではありません。……必ず、生徒に積極的に参加させてください。なぜなら生徒がそのように選択の自由を使うことによって初めて、聖霊の導きが得られるからです。また、参加することで、生徒は皆さんのメッセージをよりよく記憶できるようになります。生徒が真理を口にすると、それは彼らの中で確かなものとなり、個人の証を強めます。』³

家庭で教えるときにも同様に、御霊によって行います。家族の聖典学習や家庭の夕べなど、定期的にレッスンをする機会もありますが、教える機会の大半は予期せぬときに訪れるものであり、しかも模範によってなされるのです。ここでも同じ原則が当てはまります。つまり、両親は、教える機会が訪れたときに、備えがで

きていて、御霊に従うことができるように、「絶えず命の言葉を……大切に蓄え[る]」べきなのです。

御霊によって教え、受けるという主の方法に従うとき、わたしたちは、それぞれの家族の中で、そしてまた神の大いなる家族として、真に「ともに教化されて、ともに喜ぶ」ことができるのです。■

注

1. 1989年6月30日における教会教育システムの集会から。ジーン・R・クック、*Teaching by the Spirit* (2000年)、140で引用
2. 「伝道活動」『世界指導者訓練集会』2003年1月11日、20
3. 「真理を理解し、真理に従って生活する」教会教育システム衛星放送、2005年2月4日

両親は、
両 教える機会が訪れたときに、
備えができていて、
御霊に従うことができるように、
「絶えず命の言葉を……大切に蓄え[る]」べきなのです。

強盗と本と証^{あかし}

マイリン・エスピノサ・ミラ

わ たしはチリに住んでいます。8歳のときから教会員で、ずっと教会が真実であることを知っていました。また以前は、モルモン書についても証があると思っていました。けれどもそれは借り物の証でした。モルモン書を読みたいという気持ちはありましたが、読み通したことがなかったのです。ニーファイ第一書より先は読んだことがありませんでした。

2002年7月4日の夜に、わたしは友達と一緒にインスティテュートのモルモン書のクラスに出席しました。わたしたちはクラスが終わってから話し込み、気がついたときには遅い時間になっていました。帰宅しようと歩き出したのは10時15分ごろでした。そして分かれ道に差しかけた所で、また立ち止まって話を続けました。

二人の男が通りかかり、時間を尋ねてきたのですが、わたしたちは話に夢中でほとんど聞こえていませんでした。すると突然、二人が引き返して来て、一人がわたしに腕を回して押さえ込み、ナイフをのどもとに突きつけました。次にわたしを放して、友達を脅し、もう一人の男が金を出せと言いました。お金を持っていないと答えると二人は激怒し、上着とかばんをよこせと強い口調で言います。

その上着はずっと欲しくて1か月前にやっと買ったばかりの物でした。かばんは兄からもらったお気に入りです。友達のかばんには提出しなければならない

宿題が入っています。わたしは恐怖のあまりその場に立ち尽くしてしまいました。強盗に遭ったのはそれが初めてでした。

それでも二人とも、ためらわずに言われた物を渡しました。ところがとっさにわたしはこう言ったのです。「待って。モルモン書だけは持って行かないで。とても大切なものなの。」強盗はげげんな顔をしてこちらに目を向け、わたしにモルモン書をかばんから出させると急いで逃げて行きました。

わたしはモルモン書を抱きしめました。他のものは惜しくないと思い、二人の犯罪者からこの大事な本を取り

返せたことに平安を感じていました。

その夜わたしは、この宝物とそれが世に出るまでに払われた犠牲のすべてに対して、もっと感謝を表そうと決心しました。そしてモルモン書を読み始めました。すると言い表せないほどの平安と大きな喜びを感じたのです。にわかにモルモン書はわたしにとってもっと価値のある書物になったのです。2か月後に読み終わったときには、わたし自身の証が芽生えていました。

わ たしたちは強盗に持ち物を渡しました。しかし、そのときかばんの中にモルモン書が入っていたことを思い出し、それを持って行かないでほしいと頼みました。





玄 関に
立っている
宣教師を見て、
突然考えが
ひらめきました。
スーツを
どうするべきか
分かったのです。

モルモン書を取り返す勇気が、どこから来たのかいまだに分かりませんが、自分がしたことを後悔はしないでしょ。あの男の人たちに対して悪い感情を持ってはいません。なぜならあの出来事をきっかけにわたしは望んでいた証を手に入れたのですから。

その証のおかげでわたしは伝道に出ることができました。すでに帰還していますが、アルゼンチンで伝道していたときには、モルモン書について話し、この業がどれほどすばらしいものかを伝えることができました。■

スーツ

ローリー・リース

クリスマスはもう目の前でした。まだ使える物が必ずあるはずだと思いながら、わたしは部屋から部屋へと家中を探し、デゼルト産業（訳注——教会福祉プログラムの一環で、中古品を安く販売する店）に寄付できそうな物を探していました。最後は寝室で、夫と二人で洋服掛けの前に立ち、中の服を全部見ってみました。

「ここには何も無いわ。あなたはど。う。」わたしは夫に聞きました。

デビッドはシャツを何枚も積み上げ、履かなくなった靴を何足か見つけていました。

「このスーツはどう。」夫に聞かれて見てみると、何年か前に夫の就職の面接のためにわたしが見立てて購入したスーツです。まだ新品同様のものでした。

「君は、どう思う。サイズがもう合わないんだ。」

「でもまだ新しいわ。」

「実際のところ、ほくはもう着られないよ。」デビッドはそう言って洋服掛けから取り出しました。

わたしはそのスーツを着た夫の姿がとても気に入っていたのですが、夫はスーツをもう一着持っていました。そして実際に着てみると、明らかに体に合っていませんでした。わたしはそっと寄付品の山の上にスーツを置きましたが、何かがしっくり来ません。落ち着かない感じがするのです。スーツをそこに重ねてはいけな。いと、強く感じるのです。

次にデビッドはネクタイに目を向け、無造作にネクタイを何本か取ってスーツの上に置きました。わたしはそれもしっくり来ませんでした。

スーツを寄付品に加えたことが気になって、その夜は何度も目が覚めました。サイズが合わなくなったスーツと古いネクタイの山がこれほど気になる

のはなぜなのか不思議でした。

翌日の朝、あの衣類の山に目を向けました。するとまたしても、スーツをここに置いてはいけな。いと強く感じます。そこでネクタイを数本取り分けて、スーツと一緒にベッドの上に置きました。残りの物を全部袋に詰めてから、もう一度そのスーツに目をやりました。「いったいだれのためのスーツなのかしら。」わたしには皆目見当もつきませんでした。

ベッドのわきにひざまずいて祈り、自分の机に向かい、考えてみました。夫とわたしはワードのヤングアダルトの指導者なので、次に伝道に出るのはだれかが分かっていた。けれども彼が出るまでにはまだ間があるし、定職に就いているので、新しいスーツが買えないという心配があるとも思えません。ビショップに電話してみましたが、留守番電話になっていました。

そのとき玄関でノックする音が聞こえてきました。扉を開けてみて、飛び上がりそうになるくらいびっくりしました。

「こんにちは、リース姉妹。」わたしたちのワードで奉仕している宣教師がにこにこ笑っています。

スーツがだれのためのものだったのかが、ぱっとひらめきました。「信じられないわ。」これだけ言うのが精いっぱいでした。「ここで待っていてね。すぐに戻るから。」

おかしいあざむきに苦笑する長老たちを残して、階段を駆け上がりました。興奮で心がはちきれそうです。スーツを手で階段を下りたときには、言いようのない喜びで満たされていました。

「この背広のサイズは胸囲が100センチ。ズボンは胴回りが84、また下は

81よ。」こう言って、体に合うことを願いながら一人の長老を見詰めました。

その宣教師は、顔がパツと明るくなりました。「わたしは胸囲が100で、ズボンは84の76です。」彼は顔をほころばせて、こう言いました。「伝道の終わりまで着られるスーツが見つかるように、わたしも両親も祈っていました。伝道はもう少しで終わるのですが、擦り切れてしまって、今のスーツが着られなくなってしまったのです。」

この忠実な長老は天の御父からの贈り物であるスーツとネクタイを受け取り、感謝の言葉を述べました。わたしは玄関を閉めて再び寝室に行くとき、ひざまずいて、御父が子供たちに抱いておられる愛に感謝しました。天の御父はいつでも祈りを聞いてくださいます。■

ました。次から次へと賛辞の言葉を述べ、大学の名前とそこで取得した学位を、一般教育と宗教学の両面から詳しく説明しました。そして講演が始まりました。イエス・キリストと使徒たちの時代から始まり、1830年に末日聖徒イエス・キリスト教会がアメリカで設立され、その名を世の人々が耳にし始めるまでのキリスト教の歴史が簡単に説明されました。

その講演者がわたしたちの信仰について行った評価は、度を越して厳しいというわけではありませんでした。何回もモルモン書や教義と聖約から引用したことをみても、わたしたちの教会の書物を何冊も読んでいることは明らかでした。彼はまた、預言者ジョセフ・スミスの最初の示現の記述からも大分読みました。講演者は、モルモン教を宗教の一つに数え、だからと言ってそれほど危険な宗派ではないという結論に導きたいようでした。

わたしは誤りだと思う箇所を全部書き留めました。例えばモルモンはクリスチャンではない、ジョセフ・スミスはモルモン書を書くのにアメリカの古い小説を写したなどです。講演は詳細にわたり、1時間半以上続きました。講演が終わると、会場には割れんばかりの拍手が起こりました。

拍手が鳴りやむと、話し合いに移りました。最初に立ち上がったのはキルセ兄弟で、自分が教会員であると自己紹介をしました。そしてジョセフ・スミスがどのように金版を受けたか、回復の預言者としてどのような貢献をしたかを説明しました。

キルセ兄弟の話の聞いていると、とっさに、わたしも立ち上がって幾つかの点をきちんと説明する必要があると感じました。そうすれば出席者全員

「お父さん、お父さんを誇りに思うよ。」

マルセリーノ・フェルナンデス-レボジョス・スアレス

スペインのマドリッドには末日聖徒イエス・キリスト教会の会員が運営する学校はありません。それでも妻とわたしは、子供たちに宗教教育を受けさせたいと思い、別の宗派が母体になっている学校に入学させました。この学校に通っている教会員はわたしたちの子供だけだったので、子供たちが宗教的な差別の標的にならないように願っていました。

1999年10月のある日、息子のパブロは当時16歳で、学校から「モルモン教という宗教」と題する講演と話し合いに参加するようにという招待状をもらって来ました。講演者は著名な権威者で、その半生を宗教学、とりわけ末日聖徒イエス・キリスト教会の研究にささげてきたことで有名でした。

わたしは教会の信条がゆがんだ形で印象付けられることを懸念して、ステーク会長に連絡を取り、この集会のことを知らせました。会長は日付と場所を記録し、わたしに教会の広報部に話をするように言いました。広報部の代表が出席できれば、どんなことを質問されても答えることができます。

当日になり、わたしは妻と息子と一緒に学校に行きました。講演の行われるホールは500人が座れます。席に着くとすぐ、部屋いっぱいに詰めかけた人々を見渡して、教会員の姿を探しました。すぐに広報部のキルセ兄弟を見つけました。キルセ兄弟は教室の反対側から親しみを込めて手を振ってくれました。

会が始まり、校長が講演者を紹介し

がわたしたちの教義と信仰について、正しく知ることができるでしょう。

わたしも話したいことを家族に告げると、パブロはおびえたように言いました。「だめだよ、お父さん。何も言わないで。皆がぼくのことを知っているんだ。それに先生ともうまくいなくなっちゃうよ。」キルセ兄弟にまかせてばかりいては潔くないと思いました。息子を困難に巻き込みたくなかったので、しばらくは沈黙を守っていました。しかし時間とともに御霊の勧めは強くなってきました。

もう一度自分が家族に感じていることを話しました。息子はやはりわたし

が立ち上がって意見を言うことには反対でした。ついに、御霊を通して感じる気持ちにそれ以上逆らうことができなくなって、わたしはゆっくりと立ち上がり、聴衆の後ろを回ってキルセ兄弟のところに行きました。人々が驚いてささやく声が聞こえます。「モルモンがもう一人いたのか。」

キルセ兄弟の話が終わったので、わたしはメモした紙を取り出そうとポケットに手を入れて、仰天しました。何も入っていないのです。あのメモを席に置いて来てしまったのです。しかしわたしは、その瞬間にも話を始めなければなりません。

何から話し始めたらよいのか見当がつかず、言おうと思っていたことはみな吹き飛ばしてしまいました。そこでこのように話を始めました。「わたしは26年間末日聖徒イエス・キリスト教会の会員として過ごしてきました。この教会が地上で唯一真の教会である

ことを知っています。この教会は、イエス・キリストがジョセフ・スミスを通して回復した教会です。イエスは神の御子です。わたしたちの救い主であり^{あがな}贖い主でもあります。」

どのくらいの時間、話をしたのかは覚えていません。また言った言葉も全部は覚えていません。ただ水を打ったような静けさと、500人の目がじっとわたしに注がれていると感じていたことは、覚えています。話し終えると、わたしは自分の信仰について話をする機会が与えられたことを聴衆に感謝してその場を離れ、ホールを出ました。心には平安がありました。足は震えていました。

会が終わって家族の顔が見えると息子がやって来てこう言いました。「お父さんは正しかったよ。すばらしい証だった。力と権威を感じたよ。お父さん、お父さんを誇りに思うよ。」

パブロは、わたしが話したことで、学校生活に差し障りが生じるかもしれないと思ったでしょう。でも息子にとってもっと大切だったのは、父親に証があり、喜んでそれを表明したということでした。■

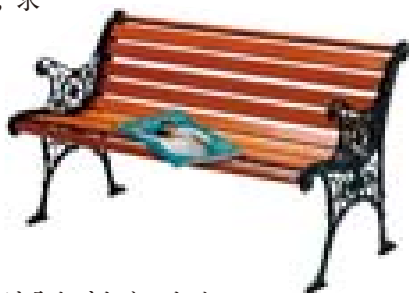
講演の後、わたしは立ち上がって、わたしたちの信仰についてきちんと説明するように御霊が勧めるのを感じました。



疑問に対する答え

ベネズエラで伝道していたときに、一人の男性に福音を教えました。その男性は教会を幾つもの研究したのですが、求めていたものを見いだすことができませんでした。そしてこの教会の教えをわたしたちから聞くと、全部喜んで受け入れました。しかし、祈りを通して答えを受けたとは感じていませんでした。そのために数々の疑問を抱くようになりましたが、その後彼の疑問は消えてなくなりました。そのことを、彼はこのように語っています。「公園でジョギングをしていると、だれもないベンチに『リアホナ』があるのを見つけました。そこで座って『リアホナ』を読んでいると、疑問に感じていた様々な事柄に対する答えが書いてあったのです。」それから彼はバプテスマの日を決めることができました。『リアホナ』に感謝しています。

チリ・ビニャデルマル伝道部、
ジョーダン・イブス長老



神殿を訪れて

ブラジルのサンパウロにある末日聖徒イエス・キリスト教会の神殿のオープンハウスに行きました。実にすばらしかったことをどうしてもお伝えしたいと思い、筆を執りました。神殿は隔々に至るまで格調高く造られており、人々は心からの配慮と敬意をもって接してくれました。わたしはイエス・キリストがそこにいらっしゃると感じました。

部屋はどれも大変美しく、どの部屋に入っても信じられないほどすばらしい平安を感じました。日の栄えの部屋は天国のようでした。純粋な愛を感じて感情を抑えることができませんでした。このような機会を与えてくださったことに感謝しています。宗派は異なりますが、この訪問を通して信仰についても、主の下さる平安についても、心がもう一度満たされた思いがしました。

ブラジル、マリーザ・ブレッティ・フェレイラ

世界を見る窓

『リアホナ』発行という並々ならぬ仕

事をしている皆さんに、敬意と感謝を送ります。『リアホナ』という窓を通すと、わたしたちの国を含めて、世界中で何が起きているのかを見ることができます。インターネット上で教会の出版物をスペイン語で読めるのもすばらしいことです。

パラグアイ、フアン・C・ヒメネス家族

いつも読んでいます

いつもこのすばらしい機関誌を読んでいます。毎月新しい『リアホナ』が来るのが待ちきれません。『リアホナ』に掲載される内容は、教会指導者が執筆したものや総大会での説教、いろいろな記事、読者からの便りなど様々ですが、読むといつでも心が高められ、靈感を受けます。『リアホナ』は霊と心と精神に、糧を与えてくれるのです。人生ではとても大切な疑問がわいてきたり、様々な状況に陥ったりしますが、『リアホナ』を開くと、そのすべてに対する答えを見つけることができます。実際のところ、どのページを読んでも実に力強い、いきいきとした証が載っています。たとえ疑い深い人でも、読む人は皆、必ず靈感を受けますと思います。

ロシア、ビアチェスラフ・グレーエフ

来月号の予告

もし世界各地に住む様々な年齢の人に伝えたいことがあるとしたら、どのような方法を使いますか。象徴を用いるというのはどうでしょうか。2月号には象徴について二つの記事が載っています。一つ

は中央幹部と末日聖徒の学者の言葉を引用した記事で、主の教えの中で象徴が用いられる方法と理由を述べたものです。主は特に神殿で教えられるときには、象徴を用いられました。神殿での礼拝の際に会員がした経験も載っています。

もう一つの記事は、良いサマリヤ

人のたとえについて論じています。著者はブリガム・ヤング大学の教授で、このたとえを初期のクリスチャンがイエス・キリストの贖いと人生で教会が果たす役割の象徴として見ていたという解釈を紹介します。





複製は禁じられていません

「ラザロの復活」ジェフリー・ヘイン画

イエスは「大声で『ラザロよ、出てきなさい』と呼ばわれた。
すると、死人は手足を布でまかれ、顔も顔おおいで包まれたまま、出てきた。」
(ヨハネ11：43-44)



「わたしたちは御^み霊^{たま}に
答えをくれるように強いることはできません。
それはちょうど、
豆に芽を出すように強制したり、
卵に^か孵化するように強要したりするようなものです。
わたしたちにできるのは
成長を促す環境を作り、養い、守ることです。
強制することはできません。
成長するまで待つのです。」
ボイド・K・パッカー会長
「霊的な知識の探求」14ページ参照